

令和4年度(2022年度)  
第1回熊本博物館協議会

令和4年(2022年)7月29日(金)午前10時  
熊本博物館

## 次 第

1 開会

2 主催者挨拶

3 会長挨拶

4 議事

(1)令和3年度(2021年度)事業報告について

(2)令和3年度(2021年度)熊本博物館運営点検評価報告について

(3)令和4年度(2022年度)事業計画について

5 その他

6 閉会

終了後、ご希望の委員には、夏季特別展「世界の大翼竜展」をご案内いたします。

## 議事（1）令和3年度事業報告について

1. 展示	・・・・・・・・・・ P 1
2. プラネタリウム関係	・・・・・・・・・・ P 4
3. 教育・普及活動	・・・・・・・・・・ P 7
4. 行事・イベント	・・・・・・・・・・ P13
5. 資料の収集・保存	・・・・・・・・・・ P16
6. 広報活動・刊行物	・・・・・・・・・・ P18
7. 入館者状況	・・・・・・・・・・ P19
8. 塚原歴史民俗資料館関係	・・・・・・・・・・ P20



## 〈熊本博物館関係〉

### 1. 展示

#### (1) 特別展（館報 P18～）

##### 【事業名】夏季特別展 銀河鉄道の夜—KAGAYA 星空の世界展—

期 間 7月17日（土）～9月5日（日）

場 所 特別展示室1・2・3

内 容 KAGAYA studio制作「銀河鉄道の夜」関連作品を中心に、イラスト・プラネタリウム番組・星景写真など様々な表現で宇宙・星空の世界を描くアーティストKAGAYA（カガヤ）氏の作品を展示した。

成 果 来場者 8,417人

備 考 令和2年度夏季特別展として実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症流行のため令和3年度に延期して実施したものの。

#### (2) 企画展（館報 P18～）

##### 【事業名】震災をふりかえる 一大地とモノが語る熊本地震一

期 間 令和3年（2021年）3月20日（土）～5月30日（日）

※新型コロナウイルス感染症拡大により4月25日（日）で終了した。

場 所 特別展示室1・2・3、2階 多目的スペース

内 容 平成28年熊本地震発生から5年が経過する時期にあわせ、熊本地震発生後の当館の取組みや地震の痕跡が残る資料を紹介し、今後の防災や文化財保存について考える展示とした。

・第1部（特別展示室1）被災した民間所有の未指定文化財

・第2部（特別展示室2）熊本地震の発生と熊本博物館

・第3部（特別展示室3）大地が語る地震の記憶

成 果 来場者 5,325人（令和3年度3,304人）

備 考 令和3年度「第2回博物館協議会」にて実績報告及び点検報告済み。本展示会で展示または紹介した剥ぎ取り標本が、県内外・各地で利活用できるよう情報をまとめて公開した。

##### 【事業名】未来へつなぐ植物の記録

##### —令和2年7月豪雨で被災した前原勘次郎の植物標本—

期 間 10月2日（土）～11月28日（日）

場 所 特別展示室1・2・3

内 容 令和2年7月豪雨によって被災した人吉城歴史館所蔵のさく葉標本に関するレスキュー活動や当館で実施した作業等を紹介。あわせて当館所蔵の前原氏採集の標本や資料等も展示した。関連イベントとして、展示解説、標本作製体験な

どを実施した。

- 成 果 来場者 12,794 人  
 備 考 来場者のほとんどは、標本レスキュー活動の存在を知らずに来場したようだったが、アンケートの感想からは資料の保存に対する理解やこれまで大切に守られてきたことへの敬意などのコメントが多く寄せられた。広く活動を知ってもらうことにつながったのではないかと思われる。

**【事業名】 能楽伝承—熊本の能文化—**

- 期 間 12月18日（土）～令和4年2月13日（日）  
 場 所 特別展示室1・2  
 内 容 熊本の能文化を隆盛に導いた細川忠興・忠利や、家老松井家に由来する資料のほか、寺社へ奉納された能面、能楽関係資料として新しく熊本県指定文化財に指定された中村家文書など、熊本の能文化の豊かさを示す資料を展示した。  
 成 果 来場者 7,231 人  
 備 考 熊本が持つ豊かな能文化に触れていただく機会となり、観覧者アンケートも好評価が多数となった。観覧のリピーターや、図録を知人に送りたいとまとめて購入される方も多かった。

**【事業名】 収蔵品展「くまはくコレクション 肥後のやきもの」**

- 期 間 令和4年3月12日（土）～5月8日（日）  
 場 所 特別展示室1・2  
 内 容 創立70周年となる当館がこれまで収蔵してきた陶磁器類を展示。  
 成 果 来場者 1,197 人（3月31日までの来場者数）  
 備 考 2年にわたる収蔵陶磁器調査の成果をもとに、「収蔵品展」として公開した美術工芸分野初めての企画。陶磁器ファンの来場者も多く、収蔵品を周知する良い機会となった。※無料配布のリーフレットも作成（2022年度館報に報告予定）

**（3）共催展（館報P20～）**

**【事業名】 くまもと市 遺跡発掘速報展 2021**

- 期 間 12月11日（土）～令和4年2月20日（日）  
 場 所 特別展示室3  
 主 催 熊本市文化財課、熊本博物館  
 内 容 熊本市内で近年行われた発掘調査と整理作業の成果を展示した。縄文時代から鎌倉時代までの貴重な資料を公開した。併せて博物館収蔵品と二本木遺跡群から出土した国内外の陶磁器の展示も行った。  
 成 果 来場者 9,174 人  
 備 考 文化財課による発掘調査成果の展示に加え、過去に発掘調査を行った二本木遺

跡群の整理作業の成果も展示した。博物館からは立田山南麓古墳群の出土遺物と、大正年間に発掘された阿高貝塚出土の貴重な土器の展示を行った。今回は当館から二つのテーマで館蔵品を展示したが、今後も収蔵庫に眠っている資料を調査し、市民の方々に研究成果を還元したい。

(4) その他の展示

**【事業名】地球・リュウグウ・そして新たな旅路へーはやぶさ2 帰還カプセル特別公開ー**

期 間 令和4年2月25日（金）～3月1日（火）

場 所 特別展示室3

主 催 熊本博物館 （協力：国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構）

内 容 小惑星探査機「はやぶさ2」が2020年12月に地球に投下した、帰還カプセルを公開した。

成 果 来場者 3,153人

備 考 当展示の実施に合わせ、天文講演会「宇宙旅行の過去と将来～宇宙旅客機の実現性～」を開催。またプラネタリウム番組「HAYABUSA2-REBORN」の投映を同時期に行い、展示内容の理解がさらに深まるように工夫した。

## 2. プラネタリウム（館報 P22～）

### （1）各種投映

#### 【事業名】 一般投映番組

前半に星空解説、後半にオート番組の2部構成で投映を行った。

星空解説部分については、職員による生解説で投映当夜の星空を紹介した。

#### （ア）「天球のものがたり」

迷子のネコと共に、創られては消えていった様々な時代の星座の世界を巡る物語を通して天球儀や星座の歴史について紹介した。

投映期間 6月29日（火）～7月16日（金）

#### （イ）「銀河鉄道の夜」

デジタルファインアーティスト KAGAYA が宮沢賢治原作の「銀河鉄道の夜」の幻想世界を徹底考察し、鮮明に再現した番組。

期 間 7月17日（土）～10月29日（金）

#### （ウ）「ブラックホールを見た日」

ブラックホールの謎に迫る100年の道のりと、人類初のブラックホール撮像に成功したイベントホライズンテレスコープについて紹介。

期 間 10月30日（土）～令和4年2月11日（金・祝）

#### （エ）「HAYABUSA2-REBORN-」

小惑星リュウグウでの探査を成功させ、地球にカプセルを届けた「はやぶさ2」の壮大な旅の軌跡を紹介した番組。

期 間 令和4年2月12日（土）～4月22日（金）

※投映期間は休館日・メンテ日を除く

#### 【事業名】 ファミリーアワー

幼児から小学校低学年やその家族を対象に、プラネタリウムに親んでもらう最初の機会として毎週土曜・日曜、祝日及び学校長期休業中に実施した。全体の投映時間は45分間（平常時は歌や掛け声を交え、わくわく感を高めるなどの工夫）。また、番組投映の前には当夜の星空を紹介。

#### （ア）「みちしるべのほし～ユータとうみがめのものがたり～」

生きものが大好きな5歳の男の子ユータと迷子のウミガメ・ハナちゃんの物語を通して黄道十二星座などを紹介する内容。

期 間 4月1日（木）～令和4年4月22日（金）

**【事業名】学習投映**

小中学校の理科・天体学習の理解を深めるため、学校団体向けの投映を行うもの。当夜の星空を中心に、星座、惑星、太陽・月・星の動きなどを生解説し、学年に合わせたテーマ番組の投映を行った。また、熊本市立小学校は5年生時に集団宿泊教室を行うことから、目的地に向かう前に当館を訪れてもらい、その際にプラネタリウム投映を行っている。宿泊教室以外の「学校行事等」での利用にも応じている。

- (ア) 星が見てきた KUMAMOTO 投映回数：2回
- (イ) むしむし星空大行進 投映回数：6回
- (ウ) スタジオ444～空のフシギをさぐれ！～ 投映回数：6回
- (エ) ポワンとフーニャンの宇宙調査隊～月と太陽のひみつ～ 投映回数：3回
- (オ) この空に願いをこめて… 投映回数：1回

**【事業名】幼児団体向け投映**

幼稚園や保育園などの幼児団体向けの投映を行うもの。投映時間は45分間で、星空の紹介（生解説）と幼児向け番組の2部構成。投映期間と内容は、前述のファミリーアワーと同様である。

**【事業名】字幕付きプラネタリウム**

プラネタリウムの投映は映像と音声で構成されており、聴覚に障がいのある人にとっては、通常の投映では内容が十分に伝わらない面がある。そこで、聴覚に障がいのある人も一緒にプラネタリウムを楽しむことができるよう、字幕付きプラネタリウムを実施した。字幕については、熊本県聴覚障害者情報提供センターにご協力をいただき実施した。

- (ア) 第42回字幕付きプラネタリウム  
投映番組「天球のものがたり」  
日 時 7月3日（土）①9時40分～10時35分、②12時10分～13時5分  
成 果 観覧者 102人
- (イ) 第43回字幕付きプラネタリウム  
投映番組「銀河鉄道の夜」  
日 時 8月7日（土）①9時40分～10時35分、②12時10分～13時5分  
成 果 観覧者 170人
- (ウ) 第44回字幕付きプラネタリウム  
投映番組「ブラックホールを見た日」  
日 時 令和4年1月15日（土）9時45分～10時35分、12時15分～13時5分  
成 果 観覧者 24人

**【事業名】特別投映**

- (ア) 熟睡プラ寝たリウム

全国一斉「熟睡プラ寝たリウム」の開催に合わせ、気持ちよく眠っていただくためのプログラム投映を行った。

日 時 11月23日（月・祝）2回

成 果 観覧者 220人

## （2）天文講演会

### 【事業名】「希望と喜びをお届け！宇宙ステーション補給機こうのとり」

期 間 11月13日（土）15時～16時30分

内 容 宇宙ステーション補給機こうのとりをはじめ、国際宇宙ステーションや今後運用予定の次世代補給機 HTV-X 等についてご講演いただいた。

場 所 プラネタリウム

成 果 参加者 47人

備 考 10月に実施予定としていたが、講師の事情により11月に延期して実施。

### 【事業名】日本の太陽系探査続々とメンバーが語る（その）魅力

期 間 令和4年2月6日（土）13時～15時

内 容 金星探査機「あかつき」の成果を紹介するとともに、三つの太陽系探査ミッションについて、それぞれの中心メンバーからご講演いただいた。

場 所 プラネタリウム

成 果 参加者 51人

備 考 佐藤勝彦氏には現地でご講演いただき、大竹真紀子氏、荒井朋子氏、吉川真氏には zoom を用いてオンラインでご講演いただいた。

### 【事業名】「宇宙旅行の過去と将来～宇宙旅客機の実現性～」

期 間 令和4年2月27日（日）15時～16時30分

内 容 宇宙開発の歴史を振り返りながら、過去のロケットに加え、将来の宇宙旅客機についてご講演いただいた。

場 所 プラネタリウム

成 果 参加者 85人

備 考 「地球・リュウグウ・そして新たな旅路へーはやぶさ2帰還が<sup>o</sup>特別公開ー」の実施に合わせ、開催したもの。

### 3. 教育・普及活動

#### (1) 通年講座・教室（館報 P27～）

##### 【事業名】考古学専門講座（全7回）※4回中止

- 目的** 熊本市内の遺跡の立地の理由を博物館展示遺物と現地踏査で探る通年講座
- 内容** 熊本市内の遺跡の立地の理由を、博物館展示遺物と現地踏査で探る通年講座である。令和3年度はテーマを3つ掲げた。1、縄文時代をSDGs（持続可能な開発目標）的視点からみる。2、立田山古墳群の立地と性格。3、西南戦争遺跡にみる戦場と戦跡の立地。
- 成果** 参加者数 69人（年間）
- 備考** 講座の前半は座学を行い、後半は古墳と西南戦争関連史跡の巡検を行った。毎年受講される方が多く、熱心に質問されることで新たな知見があり、受講者全員に良い刺激となっている。今後も市民の方々に興味を持っていただける内容で行っていききたい。

##### 【事業名】地質学講座（全3回）※2回中止

- 目的** 化石・岩石・鉱物など、熊本博物館の地質資料や大地に関する普及・啓発
- 内容** 当館の地質資料や熊本の大地に関する通年講座。小学6年生から一般成人を対象に、隔月で全5回の実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3回の実施となった。
- 成果** 参加者数 41人（年間）
- 備考** 意欲的な講座生が出席されており、講座終了後も残って質問される場面が多くある。

##### 【事業名】動物学講座（全3回）※3回中止

- 目的** 生物多様性について学び、動物としてのヒトがいかに自然と関わるべきか考える。
- 内容** 野外観察会や室内学習で、身近な動物の生態や形態などについて学ぶ。小学4年生以上を対象とした通年講座。当初、5月から3月までに全6回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3回の実施となった。
- 成果** 参加者数 44人（年間）
- 備考** 同じメンバーを対象に通年で実施する講座なので、単発のイベントよりも学習効果が高い。ただ、現在は担当者の他の業務量との兼ね合いから、準備に時間のかかる室内学習の回数を減らして実施している。（リニューアル前：室内学習6回 野外観察会6回の計12回）

##### 【事業名】植物学講座（全3回）※2回中止

- 目的** 身近な植物に親しみ、興味・関心を高め、地域の自然や生物多様性について考える。

- 内 容** 野外観察会や室内学習を通して、身近な植物に親しみ、興味・関心を高めることを目的とした通年講座。4月から12月までに全5回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、日程を変更して計3回の実施となった。
- 成 果** 参加者数 56人（年間）
- 備 考** 毎年実施している講座であり、継続して参加している方も多い。そのため年々参加者の理解や知識が深まっている様子を感じている。また、植物の話題を通して、参加者同士で情報交換などが行われている様子も見受けられる。

**【事業名】 保存科学講座（全3回）※2回中止**

- 目 的** 多種多様な文化財を保存する方法について興味関心を高める。
- 内 容** 様々な劣化要因から資料を守る博物館の取組を紹介したり、資料の修復・保存処理に関して学ぶ通年講座。5月から3月までに全6回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、日程を変更して計4回の実施となった。
- 成 果** 参加者数 30人（年間）
- 備 考** 少数人数で前半を座学、後半を実習形式として行ったため、内容の濃いものとなった。また、博物館に展示されている資料が、いかに守られているかを知ってもらう良い機会にもなっている。今後も内容を変えながら実施し、展示資料を違った側面から見てもらえるように行っていきたい。

**【事業名】 子ども科学・ものづくり教室（館報 P28～）**

- 目 的** 熊本博物館は開館以来、自然・文化・歴史資料などの保存・継承と、それらの価値や魅力を発信する拠点としての役割を果たしてきた。これに加え、現在は多様化する人々のニーズに応じた学習活動の支援をはじめ、多面的な機能を発揮することが求められるようになってきている。そのような中、当館では青少年が楽しく活動しながら自然科学の原理や技術（歴史や伝統文化に関する内容も一部含む）を体験的に学ぶことのできる機会を提供する目的で、平成11年度より「子ども科学・ものづくり教室」を開催している。
- 内 容** 小中学生を主な対象に、色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学などをテーマとした内容のほか、葉脈標本作り、アンモナイトのレプリカ作り、銅鏡のレプリカ作りなど、植物、地質、考古、保存科学分野に関する内容も取り入れ、内容の充実を図った。また、NPO 団体（日本アマチュア無線連盟熊本県支部）や崇城大学との共催イベントも行った（熊本高専とのイベントは昨年度も「中止」）。
- ※感染症拡大防止措置に係る事業規模縮小等のため、自由参加型の教室は行わず、全て事前申込・定員制の教室とした。
- ※定員制教室の例：コイルモーター作り、紙パックカメラ作り 他
- 期 間** 通年（臨時休館中の教室は「中止」）
- 成 果** 参加者数 898人（令和2年度：693人）

備考 コロナ禍以前は年間25～30回程度の開催で、参加者数は増加傾向にあったが、ここ数年は千人以下の実績（開催数：23回）となっている。しかし、応募者数は多く、教室開催のニーズは高い。年齢差・個人差に応じた実技面での指導や運営スタッフの補充など、人材面での協力体制構築を図りながら、今後も大学や高専、民間団体とも連携した事業展開により、教室の魅力を高めていく。

## （2）学校教育支援事業（館報 P36～）

### 【事業名】ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）

目的 博物館が有する価値ある収蔵資料及び学芸員・研究員の専門知識や技能を学校の授業に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。

内容 学芸員・研究員を小学校「社会科・理科」の授業を中心にゲストティーチャーとして派遣する（総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣も一部あり）。所管する資料や担当者の専門知識・技能を駆使し、学習内容の充実を図るとともに教育効果を高める（可能な範囲で派遣中）。

期間 年間を通して要請に応じて実施。

成果 延べ27校（山東小、熊大附属特支援学校高等部、出水小、芳野小、春日小、第一高等学校など）で43時間分の授業対応をした（Zoom遠隔解説等を含む）。

備考 令和2年度中に派遣授業で用いるプログラム集（冊子：第3版）を改訂し、全小中学校への配布を行い（HPでも閲覧可）、その内容をベースにカスタマイズして実践中。他業務との兼ね合いで希望に添えない場面もあるが、できるだけ早めにご相談いただくことで調整に努めている。また、Zoom等の効果的な活用場面を探りつつ遠隔授業・遠隔解説にも取り組んでいく。

### 【事業名】館内学習支援活動（お迎え事業）

目的 「館内学習プログラム集」を活用し、学校団体利用時におけるオリエンテーションや座学形式で館内展示資料（数点）の価値や魅力を紹介することで、館内見学（学習）への興味・関心を高める。

内容 当館の講堂及び実験・工作室を活用し、担当の学芸員が所管する展示物の魅力や価値を補足資料等も交えながら紹介することにより、館内見学に対する期待感を高めるとともに、見学・学習の視点を与える。学校団体予約時に館内学習プログラム集の中から1～2題材（1題材：15～20分間程度）を選んでもらい要請に応じて実施している。

期間 通年

成果 延べ31校（山東小、月出小、健軍東小、一新小、尾ノ上小など）で、49プログラムを実施した（前年度は、全26校・延べ33プログラム）。

備考 館内学習については、夏の教職員研修講座、校長・園長会等で事業内容について繰り返し触れながら広報・周知に努めている。今後も実践を通して、プログラム内容の改善を図ったり教材・教具の工夫を行ったりしてより魅力的な館内

学習を提供・展開できるよう取り組んでいく。

**【事業名】熊本博物館・スクールシャトルバス事業（お迎え事業）**

- 目的** 小学校で社会科・理科学習がスタートする中学年（3年生または4年生）の子どもたちを当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力に触れる機会を提供することで、新たな学びへの興味・関心を高める。
- 内容** 年度期間中において、事業該当校（12校）の中の希望校を対象として実施中。上記の目的を達成し、併せて学校教育支援事業（博学連携）強化の一助とするため、地理的に遠方の学校と当館を結ぶスクールシャトルバスを借り上げて運行。プラネタリウム学習投映、館内学習プログラム体験（1～2本）、館内展示物見学などを行う。
- 期間** 7月中旬～3月上旬
- 成果** 事業対象校12校の内、11校が参加（辞退：1校）。参加校の引率者（33人）と参加児童（562人）に対してアンケート調査を行った結果、プラネタリウム視聴・館内学習・展示物見学等、いずれも高評価で、次年度の参加を希望する感想も多かった。
- 備考** 感染症の収束が見通せない状況にあっても、参加希望校は前年度の9校から11校に増えた。上述のとおり参加者の満足度は高く、今後も安全・安心な事業展開に努め、館内での学習支援活動を充実させていきたい。

**【事業名】KEW（熊本エデュケーションウィーク）**

- 目的** 令和2年度から熊本市が主体となって始めた取組で、熊本博物館は令和3年度より参画。当館が行っている「博学連携事業」の一端を、学校関係者、社会教育関係者、児童・生徒・保護者、一般の方向けに周知し、さらなる連携促進の契機とする。
- 期間** 通年
- 内容** 館内での学習支援活動の様子、各学校に出向いて行うゲストティーチャー派遣授業の様子、それらと関連したZoomによる遠隔授業・遠隔解説、オンライン学習支援の取組等を紹介した。
- 成果** 40分番組の動画を制作・配信することができた（現在も「YouTube：熊本エデュケーションウィーク」にて視聴可能。当館の博学連携の概略を対外的に紹介するコンテンツが一つ増えた）。
- 備考** 熊本市は2030年度までKEWの取組を継続する予定であり、当館としても発信する内容の検討、持続可能な事業展開に不可欠な人材・時間・機材の確保等が大きな課題である。

**（3）講師派遣（館報P42）**

**【事業名】学校PTA活動・社会教育施設開催講座等の活動支援**

- 内 容 学校PTA活動や公民館等の社会教育施設で開催される行事や講座での講師を務め、内容の充実及び活動目的の達成のための支援を行う。
- ・城山幼稚園「きょうりゅうのからだのおはなし」(5月19日：33人)
  - ・立田山憩いの森「立田山探検隊スタッフ対象学習会」(6月20日：10人)
  - ・水前寺江津湖公園出水地区「江津湖のホタル研修会」(6月21日：5人)
  - ・放課後等デイ東区キーランド「科学工作を楽しもう」(7月27日：16人)
  - ・その他
- 期 間 5月～1月
- 成 果 参加者総数 557人
- 備 考 館外にて、学芸班職員の専門分野に関する講座・教室等の支援を行った。感染症防止対策に伴うイベント自粛等により、要請回数・参加者数はかなり減っているが、今後も博学連携・博社連携活動への協力を継続していく。

#### (4) 教職員研修 (館報 P43)

##### 【事業名】 教職員向け研修講座～館内学習プログラム解説編～

- 目 的 学校教育支援事業（お迎え事業）で活用する「館内学習プログラム集（全54題材）」について、その冊子の中で紹介している館内展示物等を幾つかピックアップし、その価値や魅力を各担当学芸員が教師向けに直接伝える機会とする。
- 内 容 午前中に自然系プログラム、午後に人文系プログラムを紹介した。講堂及び実験・工作室での座学や教材・教具を使った実習、展示室に移動しての解説・補足説明を行ったほか、質問にも応じた。社会教育主事の参加もあった。
- 期 日 8月23日（月）
- 成 果 午前・午後合わせての参加者：13人。学習プログラム及び活用資料・展示資料の魅力や価値（の一端）を伝えることで、博物館を身近に感じてもらった。学校だけでなく、公民館の家庭教育学級等でも館内学習プログラムを活用してみたいという感想も聞かれた。
- 備 考 コロナ禍で、夏季休業中の対面での教職員研修等は大幅に縮減された。本講座も昨年度同様、1日のみの開催とした。より多くの教職員（や社会教育主事）に参加してもらえるよう、新規プログラムの開発や内容の改善等に努める。

##### 【事業名】 熊本県・市中学校教育研究会理科部会 合同夏季研修会

- 目 的 当館学芸員・研究員の協力のもと、物理分野を中心に実技研修等を開催することで、中学校理科担当教職員の資質及び技能向上を図る。
- 内 容 物理分野における「霧箱」の製作と放射線観測を中心とした教材作成・実技研修を行った。そのほか、プラネタリウム番組を視聴し、最先端の天文物理学についての知見を深めた。
- 期 日 8月2日（月）
- 成 果 参加者数 23人（県・市中学校理科教職員）

備考 半日の研修であったが、霧箱による放射線観察を中心に物理分野及び天文分野に関する研修の場を提供することができた。今後も要請に応じて積極的に協力連携していきたい。

#### (5) 博物館実習等 (館報 P43)

##### 【事業名】博物館実習受入れ

目的 学芸員資格取得を目指す大学生 (含む：社会人) を受け入れ、様々な博物館活動に関する実習を行った。

内容 実習期間 8月25日～8月30日 (6日間)

・1日目 オリエンテーション、館内見学、管理事務・設備概要

・2日目～6日目午前

(自然系) 動物・植物・地質・天文・保存科学実習、ミュージアムカフェ、プラネタリウム対応、博学連携概要、課題製作

(人文系) 考古・歴史・美術工芸・民俗・保存科学実習、撮影実習、プラネタリウム対応、博学連携概要、課題製作

・6日目午後 展示課題発表・まとめ

受け入れ大学 熊本大学14名、崇城大学3名、福岡大学1名、九州保健福祉大学1名、琉球大学1名、山口大学2名、奈良女子大学1名、滋賀県立大学1名、筑波大学1名、八洲学園大学1名 (計26名)

備考 実習内容については、各分野ごとに実際の業務に近いことを体験してもらい、満足度の高いものとなったようである。しかし、受入人数が多いと各担当学芸員の負担も大きくなるため、次年度以降は受入人数の検討が必要。

#### (6) ホームページコンテンツ (館報 P44)

##### 【事業名】HPコンテンツ「博物館流 自然観察・科学工作のススメ」

内容 新型コロナウイルス感染症の拡大防止 (流行抑制) 対策の一環として、人混みを避けながら家庭で手軽に実施できる「自然観察・科学工作」等の方法をホームページで発信し、イベント自粛・休校・休館期間中の学習支援を行った (学習意欲等の維持・向上に寄与する一方策として)。

令和2年 (2020年) 3月2日 (月) より公開を始め、現在も継続している (適宜、更新中)。

期間 通年・随時更新

備考 一昨年度の夏頃までは、週に1本程度のペースで新規コンテンツを追加することができていたが、現在は通常業務が本格稼働し、感染症対策その他の業務も並行して行わなければならない、定期的な更新が難しくなっている。ただし、この取組は今後も必要かつ有効な生涯学習支援・学校教育支援となり得るため、紹介する内容を再検討したり担当業務のスクラップ&ビルドを進めたりしながら、持続可能な情報発信ができるよう工夫していく。

## 4. 行事・イベント

### (1) 講演会等（館報 P45）

#### 【事業名】熊本地震シンポジウム

期 日 4月25日（日）

会 場 熊本城ホール・シビックホール

共 催 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター

内 容 基調講演では平成28年（2016年）熊本地震以降、熊本県内の活断層調査に携わった3名の専門家を講師に招き、県内各地に見られる断層変位地形や地震後の地下の応力場の変化、過去の地震記録からみた今後の災害リスクといった視点から地震後に新たに得られた知見を中心に分かりやすくご講演いただいた。

成 果 基調講演 参加者 90名、パネルディスカッション 参加者 90名

備 考 本シンポジウムは熊本地震発生から5年の節目の時期であったため市民の興味関心が非常に高く、事前申し込みの時点で140名を超える応募があったが、直前の新型コロナウイルス感染症拡大に伴ってキャンセルが相次ぎ、当日の参加者は90名に留まった。

### (2) ゴールデンウィークイベント

#### 【事業名】G・W! は熊博へ ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

目 的 学芸班職員の専門性を活かし、GW期間中に多様なイベントを開催することで博物館活動の多面的な魅力を伝える。

### (3) サタデーナイトミュージアム（館報 P46）

#### 【事業名】開館時間延長イベント「サタデーナイトミュージアム」

夏季の熊本城開園時間延長期間および秋のお城まつり開催期間中の土曜日に開館時間を延長し、イベント等を実施した。周辺施設と連携を図り、当館への市民の関心を高めるとともに、博物館活動の多面的な魅力を伝えることを目的とした。

#### (ア) 夏季

期 間 7月24日（土）、7月31日（土）17時～20時（入場19時30分迄）

内 容 常設展示室の生物展示エリアにおいて、動物分野を中心に展示解説（ミュージアムトーク）や、ナイトプラネタリウムとして「銀河鉄道の夜」の投映を行った。

成 果 入場者 7月24日（土）：780人（17時以降入場者17人）

7月31日（土）：461人（17時以降入場者22人）

(イ) 秋季

期 間 11月20日(土)、11月27日(土)、12月4日(土)  
17時～20時(入場19時30分迄)

内 容 屋外展示場等のライトアップ及び竹明かりの設置や、ナイトプラネタリウムとして「銀河鉄道の夜」の投映、体験型イベント(スライムを作ろう・スライムを作ろう・もみじワークショップ・銅鏡レプリカづくり)を行った。

成 果 入場者 11月20日(土): 691人(17時以降入場者339人)  
11月27日(土): 661人(17時以降入場者321人)  
12月4日(土): 590人(17時以降入場者213人)

(4) その他(館報P48～)

**【事業名】「地質の日」企画web版：金峰山の上(西側)からみた熊本市周辺の火山**

期 間 5月10日(木)～

内 容 「地質の日くまもと実行委員会」は、毎年5月10日の「地質の日」に合わせて合同イベントを実施しているが、今年度は新型コロナウイルスの流行のためイベント開催を中止。その代替として、加盟館・協会の各ホームページで生命進化をテーマとしたwebコンテンツを制作・公開した。

成 果 熊本博物館は金峰山山頂で撮影した360°カメラの写真に山体の形成年代を記載したVR画像をホームページやFacebookに掲載し、現在も公開中である。

**【事業名】夏休み自由研究相談会**

日 時 7月24日(土)、8月21日(土) 13時～16時

内 容 夏休みの自由研究に関する相談会。第1回目は研究テーマや方法などに関する質問、第2回目はまとめ方や採集した標本の同定などを中心に実施した。

成 果 参加者数 16人

**【事業名】夏休み化石観察会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止**

日 時 8月7日(土) 9時～17時

場 所 熊本県天草市龍ヶ岳町

**【事業名】生きもの観察会(動物編)**

日 時 8月7日(土) 9時～17時

内 容 立田山での観察会

成 果 参加者 24人

**【事業名】生きもの観察会(植物編) ※雨天のため中止**

日 時 8月1日(日) 10時～11時30分

内 容 水前寺江津湖公園（上江津湖地区）での観察会

【事業名】草木染体験 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

日 時 8月14日（土）13時30分～15時

【事業名】古生物の「クリスマスツリーかざり」をつくろう！

日 時 12月11日（土）10時～ 13時30分～ 15時～

内 容 クリスマスに合わせ、お湯で軟化する樹脂を使ってアンモナイト型や三葉虫型のクリスマスツリーオーナメントを作る活動を実施。樹脂を冷ます待ち時間にはクリスマスにちなんだ古生物クイズを行った。

成 果 参加者 44人

【事業名】春の化石観察会

日 時 3月19日（土）9時～17時

内 容 熊本県天草市龍ヶ岳町での観察会

成 果 参加者 20人

【事業名】くまはく誕生月間

内 容 当館の開館日（1952年2月4日）にあわせ、2月を「くまはく誕生月間」として多様なイベントを実施。創立70周年記念事業の第一弾として開催。期間中に3回来館された方にはアンモナイトを進呈した。

期 間 2月（土日・祝日）

成 果 イベント参加者 合計519人

- ・バックヤードツアー 参加者 17人
- ・いろいろな火起こし方法を体験してみよう！ 参加者 26人
- ・紹介します！実験で使ういろいろなモノ?! 参加者 23人
- ・紙バック（Back!）を作ろう 参加者 54人
- ・顕微鏡で見てみよう 参加者 139人
- ・熊本城歴史さんぽ2022 参加者 4人
- ・世界に一つだけ?!自分だけの刀をデザインしてみよう！ 参加者 53人
- ・活性炭電池を作ろう 参加者 25人
- ・ちりめんモンスターを探してみよう！ 参加者 44人
- ・銅鏡のレプリカを作ろう 参加者 68人
- ・石器を作ろう！ 参加者 15人
- ・ウインドカーを作ろう 参加者 51人

備 考 学芸班職員がイベントを企画・実施、総務企画班が広報を担当する形で総合博物館の魅力を館全体として発信するよい機会だと捉えている。今後も多くの来館者を迎えられるよう、運営面・内容面共に工夫・改善に努めていく。

## 5. 資料の収集・保存（館報 P59～）

### （1）収蔵資料

資料点数 145,580点（2022.3.31現在）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
地質	20,097	20,097	20,112	20,172	20,182	20,233	20,846
動物	58,161	58,161	58,321	58,930	60,792	63,232	65,833
植物	16,721	16,721	16,742	16,766	16,865	16,897	16,964
理工	137	137	137	135	135	137	137
考古	10,217	10,217	10,217	10,224	10,224	10,224	10,230
歴史美工	15,049	15,049	15,175	18,138	18,469	18,773	17,121
民俗	13,135	13,135	13,319	13,558	13,561	13,823	14,449
総計	133,517	133,517	134,023	137,923	140,228	143,319	145,580

※上記は登録済みの点数であり、未整理・未登録の資料は含まない。

※各年度末における累計点数

### （2）寄贈

日付	資料名	点数
4.16	ひな人形	5
5.24	絵はがき、写真アルバム	186
5.28	四斤山砲弾（健軍神社付近採集）	1
6.7	馬原家資料（古文書、生活用具など）	200
6.7	帆船・水車・伝馬船模型	3
6.7	馬原家民俗資料（端午の節句人形・ひな人形・飲食器）	446
6.20	森本家民俗資料（羽子板など）	17
7.28	支那事変割引国庫債券	41
8.7	くすり湯資料	27
10.7	唐箕・オシガンヅメ	2
10.14	縄文土器・石器	120
10.19	ビデオテープレコーダー	1
11.5	アンモナイト	2
1.19	陶質土器	2
3.2	軍刀	1
3.3	戸内家資料	700
3.20	蟹江家資料（掛軸・刀剣類）	73

### (3) 資料修復

#### 【事業名】 歴史・美術工芸分野資料の修復 (館報 P62)

- 目 的 研磨を行うことによって、展示品として鑑賞に堪えうるレベルにまで復元するとともに、新規で白鞘を制作し、今後も安全で良好な状態で保存・管理できるようにする。
- 内 容 収蔵刀剣類について、手入れを年4回実施した(正海刀剣研磨処)。  
刀剣類6件について写真撮影を行った(株式会社テレビせとうちクリエイト)。  
生人形(頭部1点)を修復(浦仏刻所)。
- 成 果 錆が著しい資料であったが、本修復事業により展示が可能となり、適切な状態で保管することが可能となった。

## 6. 広報活動・刊行物

### 【事業名】SNS等を活用した広報及び学習情報の発信

期 間 通年

内 容 (webコンテンツ) 昨今の感染症の流行により、政府は国民に対し「新しい生活様式」を求めており、博物館運営においても大規模な集客イベントの実施が難しくなっている。従来のような集客が見込めない状況において、来館者数だけに頼らない新たな博物館の存在価値を創出するため、幅広い世代のコミュニケーションツールとして利用されているSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)等を活用し、積極的な広報や学習情報の発信を行う。

成 果 ・公式YouTubeチャンネル登録者数 520人  
 ・公式Twitter フォロワー数 3,569人  
 ・公式Instagram フォロワー数 570人  
 ・公式facebook フォロワー数 251人  
 ・熊本市塚原歴史民俗資料館 公式facebook フォロワー数 420人

《参考》 ※令和4年6月31日時点

備 考 今後も引き続き、館公式の「ホームページ」をはじめ、「Twitter」、「Instagram」、「Facebook」、「YouTube」「LINE」等をフルに活用し、様々な「世代」「地域」「嗜好」などに合わせた発信を行う。

- ・Youtube 収蔵品や展示品、企画展、講座・教室の情報等(動画)
- ・Twitter リアルタイム性と情報拡散力の高い情報等(文字、画像)
- ・Facebook オールラウンドな情報等(文字、画像)
- ・Instagram ビジュアル性の高い画像等(文字、画像)

### 【事業名】刊行物の発刊(館報P55)

#### (1) 展示会発行物

ア 企画展「未来へつなぐ植物の記録ー令和2年7月豪雨で被災した前原勘次郎の植物標本ー」解説リーフレット

内容 令和3年(2021年)10月2日(土)~11月28日(日)の会期で開催した企画展の解説リーフレット(無料配布)。

イ 企画展『能楽伝承ー熊本の能文化ー』展示図録

内容 令和3年(2021年)12月18日(土)~令和4年(2022年)2月13日(日)の会期で開催した企画展の展示図録(全68頁)。1冊500円で販売。

#### (2) くまはくニュースレター

展示会や講演会の報告、熊本の自然や収蔵資料などについての紹介。年2回発行。

- (3) 熊本博物館ニュース  
毎月の行事やイベント等について掲載。熊本市内の小中学校等に配布。12回発行。
- (4) 2020年度報告「館報」
- (5) 熊本博物館常設展示ガイドブック
- (6) 館内学習プログラム集 第2版
- (7) 資料整理報告書 三宅家文書
- (8) 美術工芸分野資料整理目録 (1) 陶磁器資料目録

## 7. 入館者状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入場者 合計	3,122	0	254	10,099	11,377	4,717	5,570	7,466	3,733	2,310	7,828	4,296	60,772
一般	1,875	0	91	5,621	6,166	2,994	2,268	3,364	1,975	1,351	4,579	2,433	32,717
高校生・大学生	155	0	1	352	760	516	166	227	171	135	273	304	3,060
小・中学校	744	0	1	2,241	3,366	714	2,655	3,049	1,275	473	1,946	1,151	17,615
就学前児・乳幼児	348	0	161	1,885	1,085	493	481	826	312	351	1,030	408	7,380
プラネタリウム 合計	1,588	0	206	7,716	8,796	3,159	3,634	3,556	2,135	1,218	2,881	2,230	37,119
一般	822	0	49	3,809	4,664	1,970	1,327	1,568	887	597	1,546	1,016	18,255
高校生・大学生	116	0	1	279	535	344	112	135	134	55	164	203	2,078
中学生以下	650	0	156	3,628	3,597	845	2,195	1,853	1,114	566	1,171	1,011	16,786

※休館日における学習投映を含む

※4月27日～6月29日は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館

## 8. 塚原歴史民俗資料館関係（館報 P103～）

### （1）企画展

#### 【事業名】「真熊151会～郷土の偉人上塚真熊の生涯～」（館報 P105）

期 間 12月21日（火）～令和4年2月27日（日）（開催日数）55日

会 場 塚原歴史民俗資料館 特別展示室

内 容 令和3年度開催の企画展は、「真熊151会～郷土の偉人上塚真熊の生涯～」と題して実施した。上塚真熊は、杉上村赤見（現熊本市南区城南町赤見）の出身で、ブラジル移民の父と称される上塚周平の実兄であり、周平を物心両面から支えた人物である。「青年文学」の立ち上げに尽力し、国木田（哲夫）独歩を文壇に導いた人物であるが、その人物像を知る人は少ない。そこで、上塚真熊の生涯をたどり、彼が残した実績を風化させないためにこの展示会を企画した。  
主な展示物は、徳富蘇峰、国木田独歩、上塚周平等の書簡・葉書、写真、真熊自筆の小説原稿、日記や彼が10年を費やして成し遂げた一大事業ともいえる耕地整理関連資料など115点。

成 果 入場者数 420人

備 考 期間中の来場者は、新型コロナウイルス感染拡大以前の状況に戻りつつあり、昨年の2倍強であった。

### （2）教室・講座（館報 P105～）

令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から4月27日から6月及び、8月・9月に予定していた講座・教室が中止となった。

#### 【事業名】古文書講座

期 間 通年（4月～3月）

会 場 塚原歴史民俗資料館研修室

内 容 受講年齢制限なしの通年講座。例年は月1回、第3日曜日に開催しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、7月からの開始となった。受講も人数制限のため2班に分けて実施した（両班とも3回の受講）。

前年度に引き続き、熊本史学会会員の花岡興史氏に「熊本の史料に見る幕藩関係」というテーマで講義をしていただいた。

成 果 受講者数 99人

備 考 新規受講生も少数あるが、複数年受講の方が多い。今後、新規受講生を増やす工夫が必要である。

#### 【事業名】考古学講座

期 間 通年（4月～3月）

- 会 場 塚原歴史民俗資料館研修室  
 内 容 年齢制限なしの通年講座。当館及び熊本博物館の学芸員、熊本城研究センター職員、近隣町村職員が講師となり開催した。原始から古代を中心に、各回テーマを設定して講義を行ったが、古文書講座同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開講は7月からとなった。実施回数は7回。  
 成 果 受講者数 84人  
 備 考 古文書講座同様、複数年受講者が多い。新規の受講者を増やす工夫が必要である。

【事業名】中学校社会科回顧講座

- 期 間 通年（4月～3月）  
 会 場 塚原歴史民俗資料館研修室  
 内 容 中学校で学んだ社会科の内容を、プレゼンテーションを活用した選択クイズ形式で改めて楽しみながら学び直す。  
 成 果 受講者数 67人

【事業名】学芸員と歩く野外博物館（春）

- 期 日 4月4日（日）  
 会 場 塚原歴史民俗資料館及び館周辺  
 内 容 年齢制限なしの教室。春と秋に実施。植物及び考古担当学芸員が案内役となり、塚原歴史民俗資料館の館内見学と館周辺に自生する野草や遺跡の観察を行った。  
 成 果 参加者 10人

【事業名】土器づくり教室（春）

- 期 日 4月25日（日）  
 会 場 塚原歴史民俗資料館研修室  
 内 容 年齢制限なしの教室。縄文・弥生土器の製作技法である輪積法により制作した土器を雲南式土窯により焼成した。  
 成 果 参加者 15人

【事業名】榎実鉄砲を作って遊ぼう ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

- 期 日 5月23日（日）  
 会 場 塚原歴史民俗資料館

【事業名】藍染体験教室～藍の色は愛の色～

- 期 日 7月11日（日）  
 会 場 塚原歴史民俗資料館研修室  
 内 容 令和2年度から実施しており、人気の教室である。綿のハンカチを藍タデの生葉を使って染め上げた。

成 果 参加者 24人

【事業名】夏だ!!わくわく古代体験教室 ※型コロナ感染症拡大防止のため中止

期 日 8月20日(金)・21日(土)・22日(日)

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 歴史や考古学の楽しさを伝えるために、小学生を対象に夏休みに毎年実施している教室である。

【事業名】学芸員と歩く野外博物館(秋)

期 日 10月10日(日)

会 場 塚原歴史民俗資料館周辺

内 容 年齢制限なしの教室。春に実施した同教室の秋バージョン。

成 果 参加者 6人

【事業名】土器づくり教室(秋)

期 日 10月31日(日)、11月3日(日)

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 春と同じく、塚原歴史民俗資料館に収蔵している土器をモデルに、各自が思い思いの土器を作成。応募者多数のため2回に分けて実施した。焼成は、雲南式の焼成法で行った。

成 果 参加者 26人

【事業名】古代織体験教室

期 日 12月12日(日)

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 年齢制限なしの教室。原始機(地機)を使った機織り体験。小学生から高齢者まで参加。

成 果 参加者 13人

【事業名】オリジナル埴輪づくり教室

期 日 令和4年1月30日(日)

会 場 塚原歴史民俗資料館

内 容 年齢制限なしの教室。古墳時代の埴輪づくりと同じ輪積法によるオリジナルの埴輪づくり。

成 果 参加者 16人

【事業名】編布コースターづくり教室

期 間 令和4年2月11日(金・祝)

会 場 塚原歴史民俗資料館  
内 容 年齢制限なしの教室。縄文時代からある「編布」の編み方でコースターを作る体験教室  
成 果 参加者 16人

【事業名】押し花葉書づくり

期 間 令和4年2月23日（水・祝）  
会 場 塚原歴史民俗資料館  
内 容 年齢制限なしの教室。野草の押し花や紅葉した木の葉を使って葉書をつくる体験教室。  
成 果 参加者 14人

（3）館外活動（館報 P108）

【事業名】学年PTA活動（清水小学校6年生及び保護者）

期 日 11月26日（金）  
内 容 体験教室として、勾玉づくりと舞錐による火おこしを指導した。ソーシャルディスタンスを確保するため、屋外で実施した。  
成 果 参加者 155人

【事業名】城南公民館への「出前講座」

期 日 12月26日（日）  
内 容 体験教室として勾玉づくりを指導した。  
成 果 参加者 16人

（4）その他の活動

【事業名】熊本市教育相談室（フレンドリー）対応

期 日 10月22日（金）  
内 容 体験教室として、勾玉づくり・火起こしを指導。  
成 果 参加者 20人

## (5) 入館者状況

令和3年度 熊本市塚原歴史民俗資料館入館者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
一般	大人	55	臨時 休館	0	98	41	84	103	100	88	106	76	63	814	
	小人	7		0	4	4	5	18	30	2	7	8	7	92	
団体	大人	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小人	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		62		0	102	45	89	121	130	90	113	84	70	<b>906</b>	

## 議事（2）令和3年度熊本博物館運営点検評価報告について

### I. 点検評価の概要

- (1) 運営の点検と評価の趣旨 . . . . . P 1
- (2) 今回の運営の点検と評価について . . . . . P 1

### II. 運営状況の概要

- (1) 主な学芸活動 . . . . . P 2
- (2) 主な施設の運営状況 . . . . . P 2

### III. 熊本博物館の施策体系図 . . . . . P 4

### IV. 施策についての点検・評価

#### 1 学芸活動

- (1) 調査・研究活動 . . . . . P 5
- (2) 展示活動 . . . . . P 7
- (3) 教育・普及活動 . . . . . P12
- (4) 収集・保存活動 . . . . . P21
- (5) 情報収集・発信 . . . . . P23

#### 2 博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然火災への対策

- (1) 施設利用 . . . . . P24
- (2) 来館者へのサービス、安全管理 . . . . . P25
- (3) 火災、地震等の自然災害対策 . . . . . P27

#### 3 市民参画・協働と他の博物館等との連携強化

- (1) 博物館活動への市民参画・協働 . . . . . P28
- (2) 熊本城とその周辺関連施設と他の博物館との連携 . . . . . P29

## 1. 点検評価の概要

### (1) 運営の点検と評価の趣旨

熊本博物館は昭和27年(1952年)に熊本城内(本丸)に開館し、花畑町の勸業館時代を経て、昭和53年(1978年)に現在の熊本城三の丸地区に、建築家・黒川紀章氏の設計により新築・移転しました。その後、建築からおよそ40年が経過し、施設の老朽化や社会の変化・進展に伴う展示技術の向上等に対応する必要が生じてきました。そこで、新たに施設機能と展示環境を見直すことで魅力ある総合博物館、政令指定都市にふさわしい熊本地域における中核博物館として多くの人々に親しまれる社会教育・生涯学習施設を目指し、平成24年度からリニューアルを進めてきました。

このような経緯の中、平成25年(2013年)7月から一部プラネタリウム等の投映は継続しつつ常設展示施設は閉館し、平成27年(2015年)7月から改修工事を進め、平成30年(2018年)12月1日、5年5カ月にわたる工期を経てリニューアルオープンしました。

リニューアルオープンの際、熊本博物館の4つの理念である「広域情報型博物館」「市民開放型博物館」「郷土立脚型博物館」「人間密着型博物館」を踏まえ、これからの新たな博物館として、運営や活動の充実と向上を図っていく必要があると考えました。

そこで、当館では『熊本博物館リニューアル後の運営方針(平成30年11月12日)』を策定し、同年度の熊本博物館協議会にて提案・承認を受けたところです。

本年度も、前段『運営方針』の5章「運営の検証と評価」に基づき、令和3年度の「2 学芸活動」、「3 博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理、火災・自然災害への対策」、及び「4 市民参画・協働と他の博物館等との連携強化」について、本協議会に報告し、今後の運営の改善と充実を図るため意見を求める次第です。

### (2) 令和3年度(2021年度)の運営の点検と評価について

令和3年度(2021年度)も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらない状況下で約2カ月間の臨時休館を余儀なくされ(4月下旬から6月下旬)、いくつかの行事・イベント、講座・教室等は残念ながら中止せざるを得ませんでした。

それでも、開館時・再開後は十分な感染症対策と運営面の工夫に努めながら、当初の年間計画をベースに、各種展示会をはじめ様々な事業を着実に実施してまいりました。

つきましては、未だ感染症収束の見通しが見えない中での館運営となっておりますが、令和3年度(2021年度)の実績を基に、今後どのように新型コロナウイルス感染症と共存(withコロナ)し、その後の展開(afterコロナ)に備えていくかという視点で点検と評価を行うことにしました。

【運営の点検期間】令和3年(2021年)4月1日～令和4年(2022年)3月31日

## II. 運営状況の概要

以下、主な学芸活動、施設の運営状況について記します。

### (1) 主な学芸活動

企画展・特別展では、「平成28年(2016年)熊本地震」から5年が経過する年にあたり、当時の被災状況に改めて思いを馳せ、震災の教訓を伝承していく企画展「震災をふりかえるー大地とモノが語る熊本地震ー」を春に開催。7月からは様々な表現で宇宙や星空の世界を描くアーティスト KAGAYA(カガヤ)氏の作品を展示した夏季特別展「銀河鉄道の夜ーKAGAYA 星空の世界展ー」を実施することができました(令和2年度計画分が感染症拡大のため延期されていたもの)。そのほか、「未来へつなぐ植物の記録」、「能楽伝承」、「くまはくコレクション 肥後のやきもの」など、コロナ禍にありながらも多彩な企画展を計画通りに開催しました。

教育・普及活動では、多岐にわたる「学校教育支援事業」の中から、主にゲストティーチャー派遣授業(お出かけ事業)や館内学習プログラム(お迎え事業)について、校長会や教職員向け研修講座でそれらの内容の紹介を行い、一層の活用促進に努めました。

子ども科学・ものづくり教室は、実験・工作室や講堂を主会場として、科学実験・科学工作を中心に理工以外の関連分野の内容も取り入れ、ほかの教育機関・団体とも協働しながら内容の充実を図りました。

情報発信については、収蔵品データベースの情報更新はもとより、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う博物館の臨時休館や小・中学校の学級閉鎖といった状況を踏まえ、家庭学習・自然観察に役立つような教育コンテンツを制作し、インターネットでの発信を継続しています。また、展示会や講演会・催しなどについても、当館ホームページ、市ホームページ、ツイッター、市政だより等を活用して情報提供を行いました。

このほか、ナイトミュージアムの開催、各種展示会や常設展示物とも連動させた講座・ミュージアムトークなどを行い、展示物の背景や魅力等に迫ることができるよう工夫しました。

### (2) 主な施設の運営状況

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、様々な感染症対策を講じながら施設運営を行ってまいりました。また、三の丸地区における中核施設として、「熊本城」「熊本城ミュージアムわくわく座」「博物館」の3館共通券の販売や施設紹介を行うなど、観光案内機能を拡充しています。

火災・災害対策としては、消防計画に地震災害への対応も加え、来館者の安全確保や有事の際の対処の仕方など館内で情報の共有化を図りました。

施設の安全管理については、全庁的な施設改修計画(個別長寿命化計画)の対象として、屋根及び外壁改修を令和2年(2020年)8月から令和3年(2021年)7月までの工期

で実施しました。

○熊本博物館入場者数及びプラネタリウム観覧者数 令和3年度（2021年度）

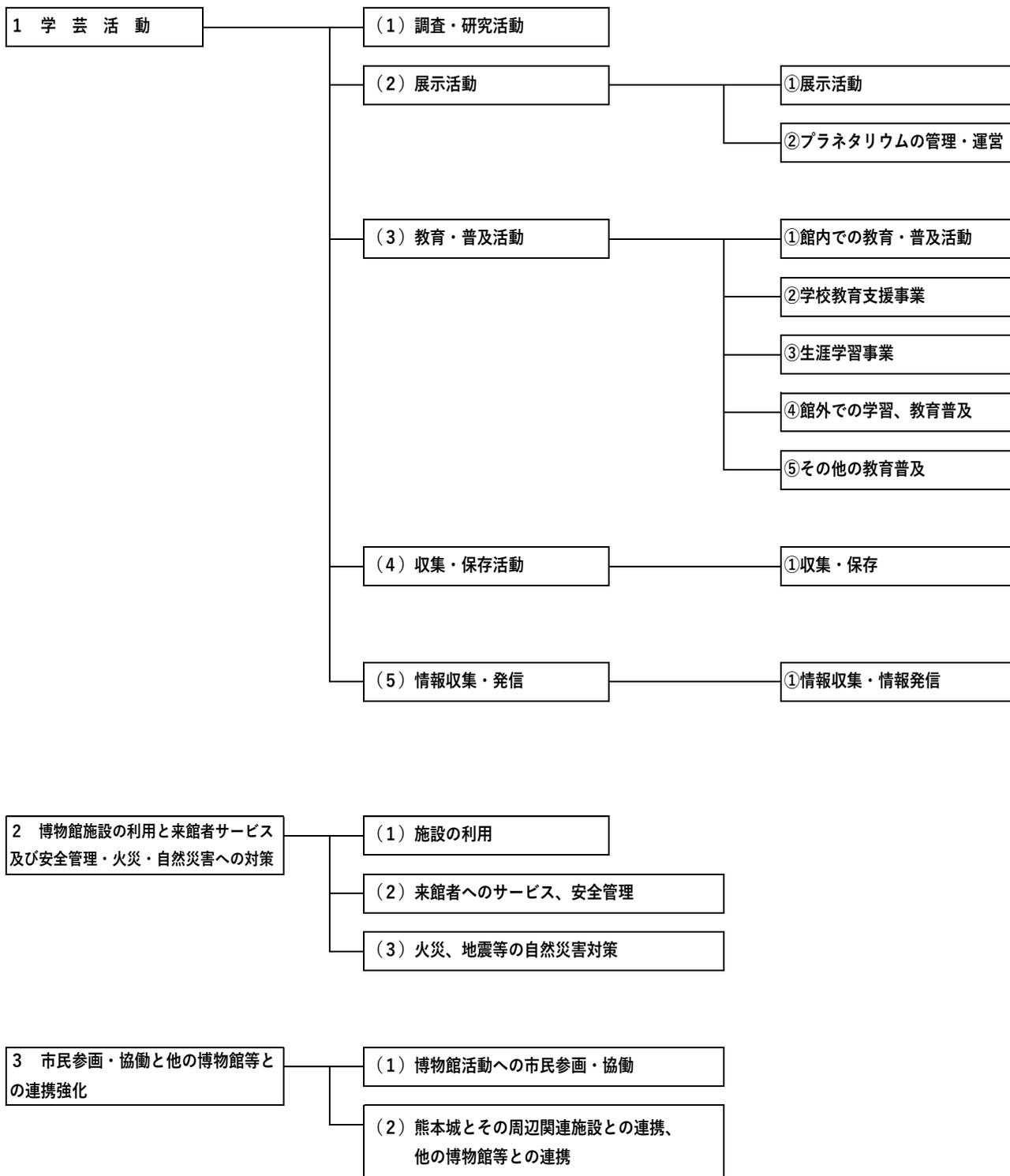
(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
博物館入場者数	3,122	0	254	10,099	11,377	4,717	5,570	7,466	3,733	2,310	7,828	4,296	60,772
プラネタリウム観覧者数	1,588	0	206	7,716	8,796	3,159	3,634	3,556	2,135	1,218	2,881	2,230	37,119

※休館日における学習投映を含む

※4月7日～6月29日は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館

### III 熊本博物館の施策体系図



#### IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(1)	調査・研究活動
①	調査・研究活動

館報P67～

##### 1 事業の目的・実績

目的	<p>熊本博物館は「考古」「歴史」「民俗」「美術工芸」「地質」「動物」「植物」「天文」「理工」「保存科学」という分野で構成する総合博物館であり、これらの各分野における調査・研究を進め、博物館の活動の質を高めていく。</p>
実績	<p><b>【調査研究における論文等を本館の館報（2021年度報告）に掲載】</b></p> <p>(1)熊本県で採集されたキテンハタ 2021年5月30日、県内で初めて採集された1個体の南方系のハタ科魚類キテンハタについて報告したもの（動物担当学芸員）</p> <p>(2)熊本地域の断層剥ぎ取り標本目録 平成28年熊本地震の記憶と教訓の継承を願い、熊本地域に関連する断層剥ぎ取り標本の情報（断層名・調査関連団体・所蔵・所在・寸法・記録されている情報等）や製作の経緯、関連文献などを記載（地質担当学芸員）</p> <p>(3)電子観望システムを利用した天体観察会のリアルタイム配信について 平時の観測会の代替案として、3密や機材との接触を避け、感染リスクを極力減らすことのできる「電子観望システム」を利用したリアルタイム天体観測会の配信実績と今後の可能性について紹介（天文担当学芸員）</p> <p>(4)立田山古墳群の再検討 その2 立田山古墳群の支群について、現地踏査と新旧地形の比較検討を行い、消滅したとされる古墳の所在や集団構造を推定することを目的とした。新たな所在は確認できなかったが、4か所の支群の築造主体はそれぞれ別集団で、集団ごとに墓域を形成していたことについて報告（考古担当学芸員）</p> <p>(5)〈資料紹介〉椿椿山筆《深水春山像》について 2021年度から実施している収蔵絵画調査において、椿椿山の真筆と確認された熊本藩侍医の肖像画について報告したもの（美術工芸担当学芸員）</p> <p>(6)その他、各分野の調査・研究方針は、同館報P.57～58に掲載</p>

2 工夫と成果・課題等 (※) 上記(2)(3)(5)の調査・研究に関して (例示)

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所の確保や各担当者との事前の打ち合わせを十分に行った。また、単に電子観望の様子を配信するのではなく、美しい天体の映像を楽しみながら天文学の知識を得られるよう解説を交えながら配信を行った。(天文)</li> <li>・今後、県内外で標本を利活用しやすいよう情報をまとめて公開。(地質)</li> <li>・立田山古墳群の再検討その1(前年度館報)で「消滅とされた古墳探し」を今後の課題としていた。その解決方法として、現地踏査と新旧地形図の比較検討を行うことにより消滅した古墳の所在場所の推定を行った。(考古)</li> <li>・2021年度から実施している収蔵絵画資料の調査成果の一つ。寄贈後保留となっていた情報を再調査・再整理し、報告を行った。(美術工芸)</li> </ul>
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子観望システムにより、来館・来場せずとも同じ星空(の一部)をリアルタイムで共有できるよさを実感した。(天文)</li> <li>・館報をホームページに公開にすることで、全国どこでも(日本語が理解できれば世界中から)熊本地域の断層標本の情報に半恒久的にアクセスできる状態となった。なかには自治体の施設内や地域の集会所に保管されている標本もあり、これらについての認識を広げ、各標本が持つ「熊本地震を語り継ぐ」役割を高める一助となった。(地質)</li> <li>・古墳群の支群について：築造主体はそれぞれ別集団で、集団ごとに墓域を形成しており、古墳数や規模から集団構成人数や力の強弱と関係し、職掌も異なっていたことが考えられる。古墳やその被葬者を理解しようとする場合、古墳が所在する台地ばかりではなく、下位の低地の地形も含めて総体的に検討する必要がある。(考古)</li> <li>・椿椿山筆という情報がありながらこれまで判断が「保留」とされてきたが、今回の調査により真筆と確認するに至ったことは大きな成果。今後、肖像画制作の背景などをさらに詳しく調べていく必要がある。(美術工芸)</li> </ul>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文や報告書を執筆するための調査・研究の時間や実践の場の確保。</li> <li>・標本の所在情報など、継続的な状況把握と記録の更新。(地質)</li> <li>・現地踏査を継続し、支群ごとに異なる地形の特徴を把握し「消滅とされた古墳探し」を行う。(考古)</li> <li>・引き続き文献調査等を実施し、本作制作の背景を探ること。また、収蔵品調査を継続して行うこと。(美術工芸)</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(2)	展示活動
①	企画展、特別展等の開催

館報P14～

##### 1 事業の目的・実績

目的	常設展示や特別展、企画展等の開催を通し、市民や国内外からの来館者・観光客に対して魅力的な展覧・鑑賞の機会を提供する。
実績	<p><b>【特別展・企画展・共催展等の開催】</b>          ※入場者数は、開催期間中の博物館入場者数</p> <p>(1)夏季特別展「銀河鉄道の夜－KAGAYA 星空の世界展－」          期間 7月17日（土）～9月5日（日） 入場者数 8,417人</p> <p>(2)企画展「震災をふりかえる－大地とモノが語る熊本地震－」          期間 令和3年（2021年）3月20日（土）～5月30日（日）          ※新型コロナウイルス感染症拡大により4月25日（日）で終了          入場者数 5,325人（令和3年度3,304人）</p> <p>(3)企画展「未来へつなぐ植物の記録－令和2年7月豪雨で被災した前原勤次郎の植物標本－」          期間 10月2日（土）～11月28日（日） 入場者数 12,794人</p> <p>(4)企画展「能楽伝承－熊本の能文化－」          期間 12月18日（土）～2月13日（日） 入場者数 7,231人</p> <p>(5)企画展「収蔵品展 くまはくコレクション 肥後のやきもの」          期間 令和4年3月12日（土）～5月8日（日）          入場者数 1,197人（令和3年3月末日時点）</p> <p>(6)共催展「くまもと市 遺跡発掘速報展2021」          期間 12月11日（土）～令和4年2月20日（日）          入場者数 9,174人</p> <p>(7)巡回展「地球・リュウグウ・そして新たな旅路へ－はやぶさ2帰還カプセル特別公開－」          期間 令和4年2月25日（金）～3月1日（火） 入場者数 3,153人</p> <p>※各種展示会の開催期間中には、関連するシンポジウム・講演会・展示解説（ミュージアムトーク）・イベントなども行った。</p>

2 工夫と成果・課題等 ※ (2) の「震災展」は前年度に報告済み

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ KAGAYA氏のファンの多くはTwitterを利用しているため、特にTwitterでの情報発信に注力した。また、KAGAYA氏本人からも定期的に特別展に関する情報発信があった。プラネタリウム番組とリンクさせ、展示物の世界観を深める工夫をした（関連イベント：投稿写真展なども実施）。（特別展）</li> <li>・ 被災資料やレスキュー活動についてはほとんど知られていなかったため、その意義や重要性等を伝えるようにした。また、標本と写真を合わせて展示することで植物を知らない方でも分かりやすくなるよう工夫した。（植物）</li> <li>・ 「肥後のやきもの」展は、2020～21年度に実施した収蔵陶磁器の成果を展覧会として公開。博物館資料の調査・整理を行い、その存在をきちんと公開するという点で、「収蔵品展」は重要な取組み。若い人にも興味をもってもらえるよう広報物を少しポップにし、熊本のやきものについての入門的な展示とすることで、初心者でもとっつきやすい内容にした。（美術工芸）</li> <li>・ 阿高貝塚出土の阿高式土器から特徴的なものを抽出し、施文の方法や鯨骨の圧痕などを分かりやすく示した。また、立田山古墳群出土の遺物と県内各地の同時期の古墳から出土した遺物を、その変遷が分かるように展示した。そのほか、藤崎台の楠から検出された西南の役当時の銃弾を速報で伝えた。（考古）</li> <li>・ 作品紹介をSNSなどで発信するなど、来館を控えておられる方々に対しても展示内容を伝える工夫をした。また、図録や目録等を作成し、展覧会終了後も企画展成果を一般の利用に供した。（各展示会）</li> <li>・ （展示会全般に関して）チラシ・ポスター等を作成して市の内外に広く周知を図るとともに、マスコミにも情報を提供し、より多くの方々に開催につ</li> </ul>
--------------------	--

<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Twitterでの告知は非常に効果的であり、熊本県外にも広く情報を提供することができた。結果、熊本県外からも大きな反響があったものの、会期中は全国的にまん延防止等重点措置が適用されており、博物館のSNSには「熊本は遠すぎて行けない」「行きたいけど外出できない」といったコメントやリプライが寄せられた。アンケートからも来場者のほとんどが熊本県内在住者であることが読み取れ、期待していた県外からの来館者の獲得は難しい状況となった。（天文特別展）</li> <li>・ アンケートでは、資料レスキュー活動や前原氏の標本が大切に保存されてきたことに対する感謝のコメントや標本の保存・活用に対する理解が深まったのではないかとと思われる感想が多く寄せられた。子どもの興味・関心を引くような内容の工夫が必要だった。（植物）</li> <li>・ 「収蔵品展」と銘打つことで、「熊本博物館にこんなものがあったのか！」という驚きの声が多数聞かれた。収蔵品をより周知するために「収蔵品展」を一度で終わらせず定期的実施していく必要がある。（美術）</li> <li>・ 立田山古墳群から出土した須恵器の調査を進めてる中で、他の研究機関からも資料についての問い合わせがあるなど、収蔵品の評価も上がっている。さらなる成果を公開できるように、今後も資料調査を継続していく。阿高式土器は塚原歴史民俗資料館にも収蔵されていることから、同時に展示することで、より内容が充実するものと考えている。（考古）</li> </ul>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き感染症対策を徹底し、安心して来館できる環境を整えておく。</li> <li>・ テーマや内容が難しいほど、幅広い世代に伝わるような工夫が必要。</li> <li>・ 展示会の内容充実のため、収蔵品等の調査・研究を継続すると共に、関連予算の確保に努める。</li> <li>・ 広報をさらに強化し、より多くの方々に来館いただけるようにしたい。</li> <li>・ マスコミへの資料提供については開催日程の前週など、より適切で効果的なタイミングを探していきたい。</li> <li>・ 他課や他館との協働、加盟団体の巡回展の活用など、連携事業を生かした展示等も行い、自主企画展と併せて多様なニーズに応えられるようにする。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(2)	展示活動
②	プラネタリウムの管理・運営

館報P22～

##### 1 事業の目的・実績

目的	<p>県内最大のプラネタリウム施設を活用し、学習投映、一般投映等を通して、天文学についての情報発信と理解促進に努める。また、管理にあたっては解説技術の向上、内容の充実を図る。</p>
実績	<p>(1)一般投映及び幼児向けファミリーアワー投映と星空解説</p> <p><b>【一般投映】</b></p> <p>①「天球のものがたり」 投映期間 4月1日(木)～7月16日(金) (4月27日～6月28日：投映休止)</p> <p>②「銀河鉄道の夜」 投映期間 7月17日(土)～10月29日(金)</p> <p>③「ブラックホールを見た日」 投映期間 10月30日(土)～令和4年度2月11日(金・祝)</p> <p>④「HAYABUSA2-REBORN-」 投映期間 令和4年度2月12日(土)～次年度まで投映</p> <p><b>【幼児・家族向けファミリーアワー】</b></p> <p>○「みちしるべのほし～ユータとうみがめのものがたり」3月9日(火)～継続</p> <p>(2)幼稚園・保育園・小中学校向け学習投映・解説 (43回)</p> <p>(3)字幕付きプラネタリウム 聴覚に障がいのある人も一緒にプラネタリウムを楽しむことができるよう、字幕付きプラネタリウムを実施した。 実施日 7月3日(土)・8月7日(土)・1月15日(土) 参加者 296人</p> <p>(4)特別投映「熟睡プラ寝たリウム」 全国一斉熟睡プラ寝たリウムの開催に合わせ、気持ちよく眠っていただくためのプログラムの投映を行った。 実施日 11月23日(火・祝) 参加者 220人</p> <p>(5)天文講演会</p> <p>①「希望と喜びをお届け！宇宙ステーション補給機こうのとりのとり」 宇宙ステーション補給機こうのとりのとりをはじめ、国際宇宙ステーションや今後運用予定の次世代補給機HTV-X等についてご講演いただいた。 実施日 11月13日(土) 参加者 47人 講師 崇城大学工学部宇宙航空システム工学科 三品 博昭氏</p> <p>②「日本の太陽系探査続々とメンバーが語る魅力」 金星探査機「あかつき」の成果を紹介するとともに、三つの太陽系探査ミッションについて、それぞれの中心メンバーからご講演いただいた。 実施日 2月6日(土) 参加者 51人 講師 JAXA 佐藤 毅彦氏 ほか3名</p> <p>③「宇宙旅行の過去と将来～宇宙旅客機の実現性～」 宇宙開発の歴史を振り返りながら、過去のロケットに加え、将来の宇宙旅客機についてご講演いただいた。 実施日 2月27日(日) 参加者 85人 講師 崇城大学工学部宇宙航空システム工学科 小林 健児氏 実施日 11月8日(日) 参加者 94人</p>

## 2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種投映については、熊本市教育委員会指導課主催の「校長・園長会（年間5～6回開催）」や宿泊教室説明会等の機会を捉えて説明を行い、協力依頼・活用促進を図った。</li> <li>・広報活動も各種媒体を通じて積極的に行った。</li> </ul>
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天文分野に関する様々な情報を、幅広い世代の観覧者に対して継続的に提供していく必要がある。</li> <li>・プラネタリウムのリニューアルから10年が経過したため、今後PCや周辺機器の修理・交換が必要になることが予想される。</li> </ul>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種投映だけでなく、天文講演会や特別投映の実施、コズミックカレッジの開催など幅広い世代の観覧者に対して天文分野に関する様々な情報提供を行う。</li> <li>・新たな発見が相次ぐ天文学に関する知見を多くの人々に伝える魅力的な番組の導入や解説内容の充実を図っていく。</li> <li>・博学連携の一環として、プラネタリウムを活用した教職員向け研修講座等も行い、さらなる利用促進につなぐ。</li> <li>・プラネタリウムの投映を安定して行うために、今後、周辺機器などの更新予算を計上する。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
①	教育・普及活動（館内での講座・講演会等）

館報P27～

##### 1 事業の目的・実績

目的	各分野の調査・研究や展示活動とも連動しながら、その成果を講座・教室等で公開することにより生涯学習・学校教育・社会教育等の充実に寄与する。
実績	<p>(1)通年講座（全34回予定→20回実施：詳細は、P.27～28）          ※感染症対策のため回数減 延べ参加者総数 241人          動物学講座（6回→3回）、植物学講座（5回→3回）、地質学講座（5回→3回）、考古学専門講座（11回→7回）、保存科学講座（7回→4回）を館内外で実施。          ※考古分野では、発掘勉強会も別途5回実施（18人参加）した。</p> <p>(2)子ども科学・ものづくり教室（全23回：898人）前年度23回：693人          科学実験・科学工作を中心に、他分野関連の内容も複数回実施          崇城大学、電波適正利用推進員協議会等との連携イベントも開催</p> <p>(3)講演会（全3回：183人）※天文講演会          ①「希望と喜びをお届け！宇宙ステーション補給機こうのとりのとり」（再掲）          崇城大学工学部宇宙航空システム工学科 三品 博昭氏（11月13日）          ②「日本の太陽系探査続々とメンバーが語る魅力」（再掲）          JAXA宇宙科学研究所 佐藤 毅彦氏 ほか3名（2月6日）          ③「宇宙旅行の過去と将来～宇宙旅客機の実現性～」（再掲）          崇城大学工学部宇宙航空システム工学科 小林 健児氏（2月27日）</p> <p>(4)「くまはく誕生月間（2月）」でのイベント実施          学芸班による各種イベント・講座開催と総務企画班による広報活動</p> <p>(5)その他のイベント等          夏休みの自由研究相談会、化石観察会、誕生月間イベント（顕微鏡での観察会、地質分野関連イベント、熊本城歴史散歩、その他）、サタデーナイトミュージアム等も実施</p>

## 2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存科学講座を新設し、収蔵資料や文化財保護の重要性について情報発信する機会を得た。各講座とも、座学及び屋内・屋外での観察会や調査活動と交え、タイムリーな話題提供と参加者ニーズへの対応に努めた。</li> <li>・子ども科学ものづくり教室は令和3年度も自由参加型の運営ができなかったため、デジタルコンテンツでの紹介を定期的に継続。また、一日当たりの開催回数を増やし、対応人数枠を増やした。</li> <li>・3回の天文講演会では、宇宙探査や宇宙開発への関心をより高めるよう、研究者との直接対話の場（質疑応答の時間）も重視した。新しい試みとして、1回は現地の1名とオンラインの3名、計4名の講師にお話をいただいた。</li> <li>・総合博物館の利点を生かし、感染症対策に努めながら幅広い世代の来館者に対応できるよう内容を工夫し、多種多様なイベントを計画した（GWイベントは残念ながら全て中止となった）。</li> </ul>
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座は中止または延期となることも多かったが、大多数の参加者には好評だった。</li> <li>・各自の業務量、多岐にわたる学芸活動全般を見通し、早めの準備・計画を心掛けるとともに、持続可能な講座・教室等の在り方（内容、運営方法、回数等）を探っていく必要がある。</li> <li>・事業のブラッシュアップと効率化に向け、関連する様々な情報収集、準備時間の確保、協力者の新規開拓等は依然として大きな課題である。</li> </ul>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な会議や連絡会を利用し、年間、四半期、月ごとの館内・館外行事について調整・確認を行い（スクラップ&amp;ビルド）、講座・教室等の準備に向けた時間や協力体制が確保できるよう努める。</li> <li>・同様の事業経験を有する諸機関・団体（高専・大学・研究機関、NPO等）との連携やデジタルコンテンツ（含む：動画）を介した情報発信などにより内容の充実と事業の周知を図り、リピーター及び新規来館者の獲得を目指す。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
②	学校教育支援事業（博学連携事業）

館報P36～

##### 1 事業の目的・実績

目的	教材・学習材として価値のある資料及び学芸員・研究員の専門性（知識・技能等）を活用し、学校教育支援・館内外における学習活動支援に資する（主に社会科・理科・総合的な学習の時間等）。
実績	<p>(1)ゲストティーチャー派遣授業【お出かけ事業】（27校：43単位時間） 派遣授業プログラム集をもとに、学校の要請に応じて学芸班職員を派遣し、学習・指導支援を行った。Zoomを活用した遠隔授業・遠隔解説にも試行的に取り組んだ。（前年度実績 15校：25単位時間）</p> <p>(2)館内学習支援活動【お迎え事業】（31校：49プログラム） 館内学習プログラム集をもとに、要請に応じて館内学習の支援を行った（前年度実績度は、26校：33プログラム）。 館内学習プログラム集を改訂し（第2版）、市内全小中学校に配布。</p> <p>(3)スクールシャトルバス事業（全12校対象：内11校参加 562人） 植木ブロック、富合・城南ブロックの小中学校中学年児童を主な対象として当館に招待し、新たな学びへの興味・関心を高める目的で実施。 （前年度実績は、9校 467人）</p> <p>(4)KEW（熊本エデュケーションウィーク）への参画 当館の学校教育支援事業のPRを兼ねて、(1)(2)の内容を中心に40分程度の動画にまとめ、YouTubeにて配信した（視聴回数：約280回）。</p> <p>※ 以下(5)～(7)の詳細は、「その他の教育普及活動」を参照のこと</p> <p>(5)教職員向け研修講座「館内学習プログラム解説」（延べ13人）</p> <p>(6)博物館実習（8月25日～30日） 受入総数 26人</p> <p>(7)その他（教職員初任者研修、中学校理科教育研究会研修、大学生の講義・館内見学受入れ等）</p>

## 2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育支援事業に関する事業体系一覧表を更新し、事業の両輪である「お出かけ事業」「お迎え事業」を中心とした各種事業内容の周知を図るため、校長・園長会等の機会を捉えて情報発信を行った。</li> <li>・令和3年度中に「館内学習プログラム集（お迎え事業用）」を改訂・配布し、さらなる利活用を呼び掛けた。</li> <li>・コロナ禍のため、講堂等での座学ができない場合は展示室での少人数解説を行うなど対応を工夫した。</li> </ul>
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育支援事業の認知度が徐々に高まり、当該プログラムの活用数は「お出かけ・お迎え事業」ともに前年度よりも増加した（Zoomによる遠隔解説も複数回実施）。</li> <li>・アンケート集計結果によると、館内学習の満足度は体験した教師・児童ともに高評価であった。</li> <li>・プログラム利用校の増加に伴い、実施日時・場所等の調整が必要。</li> </ul>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内学習は講堂及び実験・工作室での座学を想定していたが、with コロナの時代にあってはその開催が難しい場面が多い。特に、児童生徒数の多い学校団体においてはZoom等のICTを活用した学校での事前学習、展示室で少人数グループ毎の辻立ち解説等、可能な限り臨機応変に対応する。</li> <li>・学校団体のニーズや児童生徒の興味・関心を捉え、両プログラム集の定期改訂（採択教科書の改訂周期に準じて4年ごと）や実践を通じた内容更新を行い、さらなる利活用を促す。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
③	生涯学習事業（博社連携事業を含む）

館報P42

##### 1 事業の目的・実績

目的	他の社会教育施設とも連携を図りながら、多様な学芸活動の成果を幅広い世代に還元し、生涯学習への興味・関心と参加意欲の向上に資する。
実績	<p>(1)公民館の講座支援 南部公民館、河内公民館、中央公民館等で科学工作や実験ショー、文化財講座等の講師を務めた。</p> <p>(2)自然観察会の実施 わくわくえづっ子塾、水前寺江津湖公園、立田山自然探検隊、熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会等からの依頼を受け、江津湖や立田山周辺の環境及び生きもの観察会、森林・山村等での安全講習会の講師を務めた。</p> <p>(3)その他（平田・柳水地区郷づくり協議会「地域が残した震災遺構シンポジウム」ほか） 参加者総数 557人</p>

##### 2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症防止対策を継続しているものの、各施設ともウィズ・コロナでイベント等を再開しており、講師派遣依頼数は前年度より少し増えた。依頼を受けた講座等は、それぞれ専門的な知識や技能が生かせる場であり、館内業務を調整しつつ可能な限り協力するようにした。</li> <li>・幅広い年齢層、多様な職種・立場の参加者（のなるべく全員）が興味・関心を抱き、楽しく理解できるよう内容を工夫した。</li> </ul>
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から連携していた社会教育施設だけでなく、分野によっては新たな団体とのつながりが生まれた。</li> <li>・今後、講師派遣依頼数の増加が見込まれる中、館内業務との兼ね合いでどの程度の連携事業が（内容的・回数的に）可能なのか、各分野・担当者ごとに見通しをもっておく必要がある。</li> </ul>
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内での通常業務、コロナ禍での追加業務等に対応するマンパワーの現状を踏まえると、職員が出向いて行う事業の拡充には限度がある。今後も引き続き、ICTの活用を含めた効率的な連携の仕組みを検討・構築していく必要がある。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
④	館外での学習、教育普及（HP等での情報提供）

館報P44.P55~.P59

##### 1 事業の目的・実績

目的	<p>当館HP等を活用し、来館が難しい場合でも熊本の歴史や自然について学ぶことができるよう収藏品データベース等の充実を図り、館外における学習や研究活動、館外講座等での利用促進に寄与する。</p>
実績	<p>(1)収藏品データベースの情報更新・ホームページ公開 地質、動物、植物、理工、考古、歴史、民俗：約14万5千点（登録分） （天文、美術工芸も含む）</p> <p>(2)ホームページコンテンツ「気軽にやってみよう！博物館流 自然観察・科学工作のススメ」更新・公開 感染症流行等の影響により、外出やイベントの自粛が求められるような状況下においても、家庭学習や身近な自然観察に役立つような教育コンテンツを制作しインターネットにて発信中（例：「子ども科学教室にて」「蒸気機関車～白寿のつぶやき」ほか）。</p> <p>(3)刊行物の作成・公開 館報（調査・研究記事含む）、熊本博物館ニュース（月刊）、くまはくニュースレター（前期・後期：年2回）、館内学習プログラム集（第2版）等の電子公開</p> <p>(4)展示会発行物の制作 「未来へつなぐ植物の記録 -令和2年7月豪雨で被災した前原勘次郎の植物標本-」解説リーフレット 「能楽伝承 -熊本の能文化-」展示図録 「くまはくコレクション 肥後のやきもの」解説リーフレット</p> <p>(5)報告書・目録等 「資料整理報告書 三宅家文書」 「資料整理目録 陶磁器資料目録」</p>

## 2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度後半から本格運用を始めた収蔵品データベースについて、各学芸員の運用に合わせてカスタマイズを行い（令和3年度も）、利用法についての共通理解と効率化を図っている。</li> <li>・コロナ禍を機に公開を開始したホームページコンテンツは、北海道博物館の呼びかけに応じて「おうちミュージアム」に参加したことで、認知度が高まった。定期的にコンテンツの追加・更新を行った。</li> <li>・刊行物、展示会関連発行物、資料整理報告書・目録等の作成し、総合博物館の多彩な活動について情報発信できるよう努めた。</li> </ul>
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPコンテンツ「気軽にやってみよう！自然観察…のススメ」は、月1回程度の更新を継続することができた。この活動を継続していくための体制づくり及び、発信内容の検討が今後の課題である。</li> <li>・刊行物（館報、熊本博物館ニュース、くまはくNEWS LETTER）等については、今後も継続的に発行し、紙面とHPで公開していく。</li> <li>・博物館活動の大きな柱である「調査研究」、「展示」の成果をまとめた関連発行物や調査報告書・目録についても、可能な限り記録に残していく努力を惜しまないが、そのための十分な時間が必要である。</li> </ul>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍が牽引したといっても過言ではないICT環境の急速な整備に伴い、社会教育施設においても通常業務に加え、感染症対策を行いながらwebコンテンツの拡充やリモートによる多様な教育普及活動が求められている。限られたマンパワー・予算・時間の中で、with・afterコロナへの対応を念頭に、事業の選択と集中、スクラップ&amp;ビルドが喫緊の課題である。</li> <li>・刊行物等の製作・発行に関しては、一年間の歩みを記録（記憶）として残しながら総合博物館の多種多様な活動について広く周知する側面もあるため、内容の検討と充実を図るとともに、時間の確保に努める。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(3)	教育・普及活動
⑤	その他の教育・普及活動

館報P43

##### 1 事業の目的・実績

目的	当館の施設機能や学芸員等の専門性を活かし、博物館実習生の受け入れをはじめ教職員を対象とした研修会の実施、その他、職場体験学習の場として中高生等の受け入れにも応じ、求められる資質・能力の育成・向上に寄与する。
実績	<p>(1)博物館実習生受入れ（再掲） HPにて「2021年度：博物館実習生の受け入れ」を周知し、可能な限りの感染症対策を講じたうえで学芸員資格の取得を目指す県内外の大学生等26人（社会人を含む）を受け入れた（前年度は19人）。 実習期間：令和3年（2021年）8月25日（水）～8月30日（月）：6日間</p> <p>(2)高校生対象「インターンシップ職場体験実習」（中止） プラネタリウムの券売・受付、来館者案内、学芸業務体験、環境整備活動等の機会を提供する予定であったがコロナ禍のため中止。</p> <p>(3)教職員向け研修講座「館内学習プログラム解説」（再掲） （夏季休業中：1日間 延べ13人）</p> <p>(4)熊本県・市中学校教育研究会理科部会「夏季研修会」 放射線観測のための教具「霧箱」の製作と、霧箱を使った教材研究・実技研修を行った。また、プラネタリウム番組も視聴し、最先端の天文学について知見も深めた（23人）。</p>

のため

##### 2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度に続いてコロナ禍での実施となった。他館の受入人数が大きく制限されたこともあり、当館受講希望者がこれまで以上に増加したと思われる。班を分けて実施するなど、密にならないようなスケジュールを組んだ。</li> <li>・館の雑用ではなく、各分野の資料を実際に用いながら、分野ごとの実践的な内容を体験してもらえよう、各担当学芸員が工夫して実施した。（博物館実習はもとより、教職員研修講座・実技研修においても同様）</li> <li>・教職員研修では、質疑応答の時間を設けたり事前打ち合わせの時間を確保したりすることで参加者のニーズに対応できるようにした。</li> </ul>
-------------	--

<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習内容については各分野の実際の業務に近いことを体験してもらい、満足度の高いものとなったようである。しかし、受入人数が多く、各担当学芸員の負担が大きくなったため、次年度以降は受入人数を減らすことを検討（多くの実習生を受け入れたことで、一人一人への細かな対応が十分にできたかどうか不安である。また、実習日誌等の確認・返信作業にも多くの時間を要した）。</li> <li>・コロナ禍での博物館実習は受入館と実習生の双方にリスクがあり、早い段階で人数を制限して開催する必要があるとの認識を共有した（令和3年度末の館内会議にて）。</li> <li>・時間の制約があり、教職員研修講座では館内学習プログラムの全てを網羅することはできなかったが、参加者からは「この夏一番の有意義な研修だった」との講評をいただいた。これを励みに今後も継続していきたい。</li> </ul>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館実習や教職員研修講座については、早期に実施要項を示し（定員や受け入れ基準、選考方法等）、時間的に余裕をもって希望者を募る（令和4年度の博物館実習は、実習生へのケアが行き届くよう定員を20人以下に絞る）。</li> <li>・実習の評価項目を厳選するなど、評価方法の工夫・改善を図る。</li> <li>・中学生のナイスライ事業、高校生のインターンシップ受け入れを再開できるように、館内でも担当者を中心に準備体制を整えておく（学校側にも、年度内のできるだけ早い時期に希望日や人数を確定して相談するよう引き続き働きかけていく）。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(4)	収集・保存活動
①	収集・保存

館報P59～62

##### 1 事業の目的・実績

目的	当館の事業展開に必要な不可欠な資料等の収集を行うとともに、収蔵・保存・管理、収蔵品の補修等を実施し、博物館活動の充実と収蔵品の保存管理に努める。また、収蔵品のデータベース化を進め、一般公開も含め、広く収蔵資料の活用を図る。
実績	<p>(1)資料の収集・保存</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵実績、利用状況等（館報2021年度報告、P.59～62に記載）</li> </ul> <p>(2)収蔵品の収蔵管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室、収蔵庫等における環境管理</li> <li>・総合的有害生物管理（IPM）の実施</li> </ul> <p>(3)資料修復関係（同報告、P.62に記載）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・美術工芸分野</li> <li>収蔵刀剣類の手入れ（年4回）</li> <li>刀剣類6件の写真撮影</li> <li>生人形（頭部1点）の修復</li> <li>館蔵ガラス乾板「山崎アルバム」の高精細スキャン事業（全86枚）</li> </ul>

##### 2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料収集については、将来的に展示可能なもの、学術的な価値の高いものを中心に収集を行った。</li> <li>・収蔵管理については、温湿度調査やトラップの害虫計測、清掃など日常的なIPMに努め、各展示室、各収蔵庫の現状把握を行っている。</li> <li>・展示室と収蔵庫に除湿器を設置し、急激な湿度上昇を抑制している。</li> <li>・ケース内のガス濃度を測定することで濃度推移を把握でき、効率よく濃度低下を図ることができた。</li> <li>・保存修理事業については、優先順位を決め、計画的な修復を進めている。</li> <li>・刀剣類の手入れは学芸員立会いのもとで状態確認を行いながら実施。</li> <li>・年数振ずつ刀剣類を撮影し、高精細画像データを保管。他館や雑誌への画像提供やSNSでの発信などに活用。</li> <li>・修復が完了した生人形は、美術工芸分野に移管し特別収蔵庫にて保管。</li> <li>・ガラス乾板「山崎アルバム」のスキャンについては日本写真家連盟に相談のうえ、九州産業大学・百瀬俊哉教授に依頼。精細なスキャン画像データを得た。</li> <li>・歴史分野では5件の寄贈を受け入れた。</li> </ul>
-------------	--

<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られたスペースと予算の中で、資料の収集・管理・修復等に取り組んだ。</li> <li>・前年度の反省から、資料寄贈時には丁寧な説明を心掛けた。それでも、寄贈者から資料の一部返還の申し入れがあった。</li> <li>・日々の館内環境調査で気をつけねばならない箇所や時期などの問題点が把握でき、館内会議等で全職員への周知を図り、計画的な実践に取り組んでいる。</li> <li>・定期的かつ適切な資料の維持管理ができていますが、寄贈刀剣の増加に伴って作業量も増えているため、スケジュールや委託料の見直しが必要。また、刀剣の修復スケジュールを組みながら今後の撮影スケジュールを検討・計画する必要がある。</li> <li>・年1～2点程度の修復スケジュールでは全点の修理が完了しないため、スケジュール及び修復予算も見直す必要がある。</li> </ul>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、展示室や収蔵庫の清掃など、「被害の未然防止」に向けたIPMの計画を職員に周知し実践を継続する。</li> <li>・収蔵庫における除湿器の効率的かつ継続稼働を行うために、排水システムの改善と稼働時間や運営方法について職員間で共通理解を図り、実践化していく。</li> <li>・ケース開放の時期や時間を職員に周知し、継続的に行うことで濃度上昇を抑制。</li> <li>・資料の維持管理や修復に必要な予算増額を要求していく。</li> <li>・資料のデジタルアーカイブ化が求められる中、公開可能なレベルの写真データを蓄積していかなければならない。そのためにも撮影の委託や撮影機材の更新など、継続して予算要求をしていく必要がある。</li> <li>・予算の確保が厳しい中、どのように資料の拡充や保全を維持していくかが博物館運営において重要な課題である。</li> <li>・寄贈受入れ時には、寄贈者に対して資料収集・活用方針について、継続して丁寧な（念を押して）説明を行う。</li> <li>・従来の方針通り、寄贈受入れ後の資料の取り扱い等については、館の権限により適切に行う。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

1	学芸活動
(5)	情報収集・発信
①	情報収集・情報発信

館報P55

##### 1 事業の目的・実績

目的	熊本博物館における展示資料や展示会、講座・イベント情報など、様々な媒体を活用し、広く県内外へ情報発信するとともに他館の活動に関する情報収集も行い、当館の活動に活かしていく。
実績	<p>(1) (再掲) 「熊本博物館ニュース」を毎月発行し、展示会や講座、教室などの案内情報等を小中学校や市関係施設等に配布するとともに、館内でも配布を行い、月毎の情報発信を行った。</p> <p>(2) (再掲) 「くまはくNEWS LETTER」を年2回発行。展示会・講座・イベント等の開催報告や収蔵資料などの紹介を通して、博物館の多面的な魅力を発信している。</p> <p>(3) 当館ホームページ、市ホームページ、市政だよりをはじめ、各種のSNS (Facebook、Twitter、YouTube) 等を活用し、情報発信に努めた。</p>

##### 2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント情報の提供が中心となる月刊の「博物館ニュース」に加え、年2回発行の「くまはくNEWS LETTER」でイベントの実施報告や博物館活動の紹介、資料紹介・解説などを行い、魅力ある情報の発信に努めた。</li> <li>・ 館公式のSNSサイトを運用し、イベント告知だけでなく展示替えや来館者の目に触れにくい学芸員の仕事についても情報発信を行った。</li> </ul>
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館での展示会・教室・講演会などの催しやイベントなどについて、あらゆる媒体を活用しながら県内外への周知を図っていく必要がある。</li> <li>・ SNSの活用では、それぞれの利点を活かし、幅広い世代に向けた情報発信に努める。</li> </ul>
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当館独自の広報活動や市政だよりによる周知のほか、報道機関等や生活情報誌への情報提供を行うなど、さらに積極的な広報に努める。</li> <li>・ 熊本城周辺施設との連携や熊本国際コンベンション協会等との共同イベントの開催、博物館単体ではなく共同での催しも工夫して企画するなど、様々な方法で博物館の魅力を県内外に発信できるようにする。</li> <li>・ SNSについては、Youtube、Twitter、Facebook、Instagramなどの特性を考慮し、内容も工夫しながら広報活動を展開していく。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(1)	施設利用

館報 無

##### 1 事業の目的・実績

目的	来館者の安全確保に努め、誰もが安心して気軽に博物館を訪れたり、活用したりすることができるようにするとともに、公開承認施設を目指し、博物館施設管理の徹底を図る。
実績	<p>(1)特別展示室の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公開承認施設」を目指し、当館管理のもとで特別展示室1・2・3、常設展示室、収蔵庫等の環境調査等を行いながら展示環境の整備を行った。</li> <li>・保存科学担当の学芸員を中心に、年間を通して展示環境の変化に注意を払い、環境保全・改善に努めた。</li> </ul> <p>(2)展示室、講堂、実験・工作室の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策を講じながら博物館主催・共催、及び学芸員等が参画する講演会、講座、研修会等で使用した。また、小中学生を対象とした館内学習プログラムをはじめ、教職員を対象とした研究会・研修講座等でも使用した。</li> </ul>

##### 2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示室や特別展示室での来館者の動線や展示環境の変化に注意を払い、適切な環境整備に取り組んだ。</li> <li>・展示する資料を保管する場所、作業動線、展示室、ケース内部の環境をなるべく同じにし、資料にストレスをかけないような対策を行った。</li> <li>・定期的にケース内のガス濃度を測定し、濃度が基準値を超過しないようにした。また、休館日等にはケース開放を実施し、資料の状況と温湿度の変動を見ながら、ガス濃度の低下を目指した。</li> <li>・講堂及び実験・工作室の使用に際しては、（感染症対策の一環として）講演会やイベント、講座ごとに適切な収容定員を設け、座席の配置や一方通行化など、安全な動線づくりなどにも努めた。</li> </ul>
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・館内展示環境の変動状況などを年間通してモニタリングし、館運営のための基礎情報とした（定期的に館内会議で報告し共通理解を図った）。</li> <li>・ケース内のガス濃度を低下させるため、ケース開放を職員に周知し、効率的かつ継続的な環境整備に努める必要がある。</li> <li>・今後も十分な感染症対策を講じて来館者の安全・安心を確保する。</li> </ul>
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年度及び昨年度の展示期間における環境データから、温度・湿度・ガス濃度の時期的な変化を把握できている。それらを参考にしながら、突発的な変動にも対応できるよう運用していく。</li> <li>・今後も適切な感染症対策を講じたうえで、各展示室等の適切な環境整備や管理、施設の安全かつ適切な運用を図っていく。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(2)	来館者へのサービス、安全管理

館報 無

##### 1 事業の目的・実績

目的	安全で誰もが安心して気持ち良く訪れることができる博物館づくりに取り組む。
実績	<p>(1) エントランスの活用            エントランスには休憩用ソファやイスを配置するとともにミュージアショップを設置し、来館者のサービス向上に努めた。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、ソーシャルディスタンスを考慮した配置を行った。また、来館者が飲料補給できるようにエントランス区域のみ飲料可として（館内は原則的に飲食不可）、ミュージアムショップと協力しながら飲料水の提供やエリアの周知徹底を図った。</p> <p>(2) 入場券販売方法、個人での来館、団体での来館への対応            受付窓口では、入場券販売機の案内及び減免対象者の案内等、館内へのスムーズな誘導を行うとともに、開催中の展示会や催しなどの案内、団体受付も行き、来館者へのサービス向上に努めた。            また、三の丸地区の中核拠点として、熊本城・熊本城ミュージアムわくわく座・博物館の3館共通券の販売や施設案内等を行い、観光案内機能を拡充した。</p> <p>(3) 身体障がい者、高齢者の方等への対応            南側玄関は団体客入場口として運用するとともに、これまで同様に身体障がい者用駐車場も設置し、入場時の利便性を確保している。            身体障がい者や高齢者が、いつでも利用できるよう車イス（3台）を配備している。また、ベビーカー（4台）も配備し、来館者サービスの向上を図った。</p> <p>(4) 来館者の誘導、安全管理            新型コロナウイルス感染症防止対策として、入館時の検温、入館票の記入、手指消毒、マスク着用の徹底等、館内における感染対策を実施し、来館者が安心して観覧できる環境整備を行った。また、警備員1名を常駐させ、来館者の安全管理・安全確保に努めるとともに、不審者の侵入監視、閉館後の施錠確認等の徹底を図った。</p>

## 2 工夫と成果・課題等

<p>取組において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓口対応や館内案内についてはアウトソーシングにより専門的ノウハウの活用を行い、来館者サービスの向上と効率性の高い対応を行っている。また、キャッシュレス決済の導入等により、来館者への利便性の向上も図っている。</li> <li>・総合受付として、一般来館者の受付だけでなく、団体予約の受付も一元化することで一括管理が可能となっている。</li> <li>・ミュージアムショップを設置することで、エントランスの賑わいや博物館の魅力向上を図っている。ショップでの商品については、コンベンション職員と当館職員との意見交換の場を設け、内容の充実を図っている。</li> <li>・感染防止対策として、文化庁の補助事業を活用し、来館者の体温を自動検温するサーモカメラや館内の空気環境を浄化する空気清浄機の設置を行っている。</li> <li>・来館者の動線を誘導するサイン等の設置により、人の滞留の抑制とソーシャルディスタンスの確保に努めた。</li> </ul>
<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓口案内業務をアウトソーシングすることで、旅行者等の多様なニーズにも柔軟に対応することができた。</li> <li>・ミュージアムショップ設置は博物館の魅力を上向きさせるうえで効果があり、今後も来館者にとって魅力ある博物館らしい品揃えを行うよう努める。</li> <li>・感染防止対策については、今後も日常的な業務となる可能性が高いことから、効率的なマンパワーの活用が課題となる。</li> </ul>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者案内や入場券の販売対応等に際しては、窓口以外の職員も含め、館全体としてさらに親切で丁寧な対応に努めていく必要がある。</li> <li>・ミュージアムショップの商品については、展示会や展示物との関連を図り、今後も継続してコンベンション職員と当館職員でアイデアを出し合い、来館者にとって魅力ある品ぞろえを行う。</li> <li>・感染防止対策に係るマンパワーは、機器やサイン等をより効果的に活用することにより職員の負担軽減に努める。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

2	博物館施設の利用と来館者サービス及び安全管理・火災・自然災害への対策
(3)	火災、地震等の自然災害対策

館報 無

##### 1 事業の目的・実績

目的	万が一の火災や地震等の自然災害から来館者の安全を守るとともに、展示資料及び収蔵資料の保護・保全を行う。
実績	<p>(1)消防計画に沿った安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防計画に沿った安全管理を実施。火災だけでなく地震対策についても記載している。また、当該計画では自衛消防隊を設置し、隊員それぞれが任務を分担し、緊急時には迅速な対応ができる体制づくりを行っている。</li> <li>・消防訓練を年1回実施。初動対応マニュアル及び施設配置図を視認しやすい場所に設置している。</li> </ul> <p>(2)屋根・外壁改修工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根の経年劣化等が原因と考えられる雨漏りが発生。該当箇所は、リニューアル工事での施工部分ではなく新たな改修工事が必要となっていたもので、これに合わせて全庁的な施設改修計画「個別長寿命化計画」の対象となる外壁改修も行った。(令和2年8月から令和3年7月までの工期)</li> </ul>

##### 2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防計画においては火災だけでなく地震災害への対応も記載。また、塚原歴史民俗資料館の消防計画においても同様の対応を行っている。</li> <li>・職員全員で避難訓練を行い、各自の役割を再確認するとともに来館者の安全確保や有事の際の対処の仕方について理解を深めた。</li> </ul>
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防計画に基づいた定期的な避難訓練を継続して実施し、有事の際はもとより常日頃から来館者の安全確保に万全を期すよう備えていく必要がある。</li> </ul>
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者の安全確保や収蔵品保全のため、消防署等の助言を受けながら様々なパターンの避難訓練等を定期的実施していく。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

3	市民参画・協働と他の博物館等との連携強化
(1)	博物館活動への市民参画・協働

館報 無

##### 1 事業の目的・実績

目的	博物館活動において市民参画・協働による活動を展開し、市民に親しまれる博物館活動を行い、市民と共に発展しくことを目指す。
実績	「くまはくボランティア」の規約に基づき、各学芸員の要請に応じて資料修復等のボランティア活動を行っていただいている（例：被災した他館の植物標本レスキュー活動等）。

##### 2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸班職員が、分野ごとに参加者の興味・関心を高めるようなテーマを設定し、内容も工夫して魅力ある各種講座及び教室等を実施している。</li> <li>・通年講座等において、受講生とのつながりを深め、今後、博物館運営の参画・協働パートナーとなり得る人材の養成に努めている。</li> </ul>
取組による成果と次年度に残った課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野で一定の専門性をもち、継続して活躍いただけるよう、博物館としても人材育成やグループの活動支援に努めていく必要がある。</li> </ul>
課題に対する今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も魅力的な講座や教室等を開催し、市民とのつながりを一層深めるとともに、参加者の専門的な知識や技能の向上を図る。</li> <li>・市民参画・協働の姿を具現化できる体制整備のため、活動の種類や内容などを検討していく。</li> </ul>

#### IV. 施策についての点検報告

3	市民参画・協働と他の博物館等との連携強化
(2)	熊本城とその周辺関連施設との連携、他の博物館との連携

館報 無

##### 1 事業の目的・実績

目的	熊本城周辺の文化施設及び観光部署が連携し、熊本城をはじめとした上質で伝統ある「熊本の歴史・文化・自然の魅力や価値」を積極的に発信し、国内外の観光客や教育旅行の誘致・拡大につなぐ。また、県内外の博物館との連携やネットワークの構築を図り、質の高い博物館活動の実現を目指す。
実績	<p>(1)熊本城周辺美術館・博物館施設との連携          熊本県伝統工芸館、熊本県立美術館、熊本博物館、熊本市現代美術館、熊本城総合事務所、熊本城ミュージアムわくわく座及び熊本市観光政策課、熊本県文化課による連携会議に平成29年度より参加。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で1回の開催となったが、メール等により情報共有を定期的に行い、引き続き関連施設の一体的な連携強化を図っている。</p> <p>(2) 熊本城域活性化協議会          熊本城を中心に、観光を軸とした活性化協議会に令和3年度から本格的に参画。観光施設としての視点で熊本城域の回遊性を高め、各施設が協働しながら来館者の増加につながるよう努めている。周辺地域の観光イベントに合わせた展示の工夫やイベントの開催等、他部門との連携に取り組んだ。</p> <p>(3) 熊本県内博物館、美術館、記念館等との連携          熊本県博物館連絡協議会に加盟する各施設の情報や新型コロナウイルス感染症の対応状況等について、協議会事務局（熊本県博物館ネットワークセンター）を中心に共有化を図り、課題解決に向けた検討・協議を行うとともに、各館での取組に活かしている。</p>

##### 2 工夫と成果・課題等

取組において工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本城周辺の関連施設や行政観光部署等とも展覧会・催事等についての情報を共有し、連携した催事や広報を行うことによる相乗効果を狙った。</li> <li>・それぞれの事業が一過性ではなく、継続した事業として定着・発展するよう定期的に情報共有の場（機会）を設けている。</li> </ul>
-------------	--

<p>取組による成果と次年度に残った課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本城及びその周辺関連施設において、感染症対策に関する情報共有・情報交換を行うことにより（施設毎に規模や環境が違い、対応の仕方も多少異なるため）、日々変化する状況への対応を検討・具体化するうえで参考にすることができた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響が未だに強く残る中（withコロナ）、今後も継続して相互に連携を図り、協働による取組を強化するためには、連携会議等の新しい活動の形を検討していく必要がある。</li> </ul>
<p>課題に対する今後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを活用した遠隔会議やメール等の活用など、新しい生活様式に則した会議の運営方法や情報交換の在り方について引き続き模索。</li> <li>・各施設や観光振興部署等との定期的な情報共有・情報交換を行い、より効果的な広報やイベント等を計画的に実施していく。</li> </ul>

## 議事（3）令和4年度事業計画について

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1. 展示          | ・・・・・・・・・・ P 1 |
| 2. プラネタリウム関係   | ・・・・・・・・・・ P 3 |
| 3. 教育・普及活動     | ・・・・・・・・・・ P 4 |
| 4. 行事・イベント     | ・・・・・・・・・・ P 9 |
| 5. 資料の収集・保存    | ・・・・・・・・・・ P10 |
| 6. 塚原歴史民俗資料館関係 | ・・・・・・・・・・ P11 |



## 1. 展示

### (1) 特別展

【事業名】 熊本博物館創立70周年／KKT熊本県民テレビ開局40周年記念特別展  
「世界の大翼竜展」

目的 「翼竜」それは地球史上初めて空に羽ばたいた脊椎動物であり、恐竜時代の空の支配者だった。1億5000万年以上の長きにわたって空の生態系の頂点に君臨した彼らは、いったいどのような生物だったのか、本展では最新の研究によって明らかになりつつある翼竜たちのすがたに迫る。

内容 化石からよみがえる翼竜のすがた

- ・翼竜VS羽毛恐竜 ～空をめざした二つの“竜”～
- ・1992年 翼竜発見！～日本各地で見つかる翼竜化石～
- ・翼竜大進化
- ・世界の翼竜大集合！多様なすがたの翼竜たち

会場 特別展示室1・2・3

期間 令和4年7月16日（土）～ 令和4年9月4日（日）

### (2) 企画展・共催展

【事業名】 熊本博物館創立70周年記念 企画展「あつまれ！地域の宝ものー熊本市域にのこる“文化財”のミリオク！ー」

目的 現在、熊本市域には国・県・市あわせて240を超える指定文化財があるが、いったいどのようなものがあるのかはあまり知られていない。本展は、熊本市域にのこる指定文化財を改めて紹介し、本市の文化財の魅力を発信するもの。

内容

- ・重要文化財《巴螺鈿鞍》（熊本県立美術館所蔵）
- ・熊本県指定重要文化財《木造馬頭観音立像》（東阿高地区所蔵、塚原歴史民俗資料館寄託）
- ・熊本市指定文化財《河内役場文書》（熊本市所蔵）

ほか

会場 特別展示室1・2・3 ※特展3はパネル展示

期間 令和4年10月15日（土）～ 11月20日（日）

【事業名】 企画展「廃藩置県と熊本藩」

目 的 熊本大学附属図書館との初コラボ企画。

新型コロナの感染拡大のため、昨年はオンライン開催となった「熊本大学附属図書館貴重資料展」を、熊本博物館所蔵資料を交えた企画展として内容を一新。

明治4年（1871）の「廃藩置県」という転換期を軸に、熊本で起きた変化などに注目する。

内 容 古文書を中心とした最新の研究成果を展示。

また、熊本博物館が所蔵する関連資料（熊本城絵図など）も公開する。

展示資料：永青文庫所蔵古文書（熊本大学附属図書館寄託）

熊本博物館所蔵資料

会 場 特別展示室1・2

期 間 令和5年2月11日（土・祝）～3月19日（日） ※日程調整中

【事業名】 立田山の自然～身近な自然立田山の魅力～

目 的 身近な自然とのかかわり方について考え、理解を深めてもらう。

内 容 地質・動物・植物の資料により、立田山の変遷や成り立ち、自然環境などについて幅広く紹介する。

会 場 特別展示室3

期 間 令和5年3月18日（土）～5月15日（日）

【事業名】 共催展「いきものフェアくまもと2022」 ※実施済み

目 的 生物多様性について楽しく学べる参加型・体験型のプログラムの実施を通して、私たちの暮らしが生物多様性に支えられていることや生物多様性を守ることの大切さを知り、市民自らが行動するきっかけを提供するもの。

内 容 生物多様性の日イベントとして熊本市動植物園にて開催  
（熊本博物館・動植物園・環境総合センター・環境共生課）

会 場 熊本市動植物園

期 間 令和4年5月21日（土）、5月22日（日）

事業名 共催展「熊本市遺跡発掘速報展」

目 的 最新の熊本市内の発掘調査成果の公開

- 内 容 文化財課との共催で、近年に発掘した遺跡の出土遺物や解説パネルの展示を行う。
- 会 場 特別展示室3
- 期 間 令和4年12月～令和5年2月頃 ※日程調整中

### (3) その他の展示会

【事業名】 「肥後しゃくやく展」 ※実施済み

目 的 栽培者はわずか数名で、一般の方が鑑賞できる機会は少ないため、熊本の伝統園芸として広く知ってもらふ貴重な鑑賞の機会とする。

内 容 肥後しゃくやくの切り花を展示。

会 場 塚原歴史民俗資料館

期 間 令和4年5月4日（水・祝）、5日（木・祝）

【事業名】 「肥後朝顔 秋の展示会」

目 的 肥後六花の一つである肥後朝顔を一般の方々に鑑賞していただき、伝統園芸として広く伝え、普及・啓発を図る。

内 容 肥後朝顔涼花会が栽培した肥後朝顔を展示。

会 場 水前寺成趣園 古今伝授の間

期 間 令和4年9月2日（金）～4日（日）

## 2. プラネタリウム関係

【事業名】 プラネタリウム投映

目 的 星や星座、惑星などについて学ぶ機会を提供するとともに、天文・宇宙に関する情報発信を行う。

- 内 容
- ①天文・宇宙に関する様々な話題を紹介する一般投映番組とともに、スタッフの解説による星空案内を行う（投映日の夜空等）。
  - ②幼稚園・保育園・こども園・小中学校の団体向けに、各学年の学習内容に応じた投映・解説を行う。
  - ③幼児・家族向けのファミリーアワー、特別投映、聴覚障がい者向けの「字幕付きプラネタリウム（年度内に4度開催）」等を実施する。

期 間 令和4年度（通年）

【事業名】 天文講演会

目的 天文・宇宙に関する最新的话题を研究者の生の声で伝える機会を提供する。

内容 天文・宇宙分野において第一線で活躍されている研究者を招き、最新の天文学について講演いただく。

期日 令和4年度は年に4回開催予定 ※日程調整中（※1回目は実施済み）

【事業名】 プラネタリウム特別投映

目的 プラネタリウム活用の一環として、通常のプラネタリウム投映とは異なる1回限りの特別なプログラムを投映する。

内容 6月18日：井元解説員による「月」に特化した生解説プログラム  
11月23日：熟睡プラ寝タリウム（気持ち良く眠っていただくプログラム）  
12月24日（仮）：クリスマスコンサート 他は未定

期日 令和4年度は年に4回実施 ※日程調整中（※1回目は実施済み）

【事業名】 字幕付きプラネタリウム

目的 聴覚に障がいのある方も、そうでない方も一緒にプラネタリウムを楽しむように字幕付きの投映を行う。

内容 一般投映番組の字幕付き投映

期日 令和4年度は4回実施 ※日程調整中（※1回目は実施済み）

### 3. 教育・普及活動

#### （1）講座・講演会等

##### ① 通年講座の開催

【事業名】 動物学講座

目的 室内講座や野外観察を通して動物について学び、身近な自然に対する興味・関心を高める。

内容 令和4年度は5月～翌年3月まで奇数月に実施。全6回。小学4年生以上対象。室内学習や野外での観察会など。

【事業名】 植物学講座

目的 室内解説や野外観察を通して植物について学び、身近な自然に対する興

味・関心を高める。

内 容 令和4年度は5月～翌年3月まで奇数月に実施。全6回。小学4年生以上対象。室内学習や野外での観察会など。

【事業名】 地質学講座

目 的 化石・岩石・鉱物等、熊本博物館の地質資料や大地に関する普及・啓発を図る。

内 容 令和4年度は6月～翌年2月までの偶数月に実施。各回テーマを設定し、室内学習を行う。

【事業名】 考古学専門講座

目 的 土器や石器など「もの」から人類の歴史を学び、考古学に関する興味・関心を高める。

内 容 令和4年度は5月～翌年3月までの期間で6回実施。各回テーマを設定し、一般を対象として、室内講座と体験学習を行う。

【事業名】 保存科学講座

目 的 室内講座や解説を通して保存科学の概要を知ってもらい、文化財の保存に対する興味・関心を高める。

内 容 令和4年度は5月～3月までの奇数月実施。全6回。

【事業名】 くまはくの ゆるゆる美術部

目 的 熊本市域のあまり知られていない美術について、関心を持ったり調べたりするきっかけ作りを行う。

内 容 令和4年度は、6・10・1月の年3回活動。学芸員と参加者が一緒に調べたり、寺社の見学を行う予定。

(2) 学校教育支援事業

【事業名】 ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）

目 的 博物館が有する価値ある収蔵資料及び学芸員・研究員の専門知識や技能を学校の授業に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。

内 容 主に小学校「社会科・理科」の授業を中心に、学芸員・研究員をゲストティーチャーとして派遣する。各分野の専門性や所管資料を生かし、実施可能な範囲で担任の指導を補佐しながら学習内容の充実を図るとともに教育効果を高める。派遣授業の内容を、タブレット端末のアプリ（Zoom）を活用して遠隔で行うなど、今後も感染症の流行状況や学校からの要請に応じて取り組む。

※令和2年度に「プログラム集」を改定・配布。

※小学校・中学校の共通題材として、総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣もあり。

対象者 主に熊本市内の小中学校の児童・生徒・教職員（92小学校、42中学校）  
期 間 令和4年度（通年）

【事業名】 学校PTA活動支援/社会教育施設開催講座協力

内 容 自然科学への興味・関心を高めることを目的とした学年・学級PTA活動や公民館講座などに講師として参加。内容の充実及び活動目的達成のための支援を行う。

※子ども科学・ものづくり教室で行っている科学実験・科学工作の中からいくつかの題材を選んで提供し、共に活動を楽しむ。

対象者 主に小・中学生  
期 間 令和4年度（通年）

【事業名】 館内学習支援活動（お迎え事業）

目 的 「館内学習プログラム集」を活用し、学校団体利用時のオリエンテーション等において館内展示資料（数点）の価値や魅力を紹介することで座学後に行う館内見学（学習）への興味・関心を高める。

内 容 オリエンテーションの際に、館内展示物の魅力や価値を紹介し、館内見学への期待感を高めるとともに見学の視点を与える。団体予約時に館内学習プログラム集の中から1～2題材（1題材：15分間程度）を選んでもらい、要請に応じて実施。

※令和3年度に「プログラム集」を改定・配布。【対象者】小中学校団体全般（市内・外）

期 間 令和4年度（通年）

- 【事業名】 博物館・スクールシャトルバス事業（お迎え事業）
- 目 的 小学校で社会科・理科学習がスタートする中学年（3年生または4年生）の子どもたちを当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力に触れる機会を提供することで、新たな学びへの興味・関心を高める。
- 内 容 上記の目的を達成し、併せて学校教育支援事業（博学連携）強化の一助とするため、地理的に遠方の学校と当館を結ぶスクールシャトルバスを借り上げて運行。館内スケジュールについては学校と相談して決定するが、基本的にはプラネタリウムの学習投映、館内学習プログラム体験（1～2本）、館内展示物見学などを盛り込んで実施する。
- 対象者 富合・植木・城南地区の小学校：12校 主に中学年児童・教職員
- 期 間 令和4年度（通年）
- 
- 【事業名】 教職員研修等への協力支援（主催・参画・協力等）
- 目 的 学校教育支援事業を補完する諸活動を実施し、博学連携の一層の充実を図る。
- 内 容 教職員としての資質・能力の向上に資するための協力支援を行う。
- ・ 夏季休業中の教職員研修講座「館内プログラム解説編」
  - ・ 小中学校「理科実技研修会（講習会）」
  - ・ 指導課・教育センター主催講座への協力
  - ・ 教科等主任会（理科主任会等）からの要請講座
  - ・ 教職員（及び中学生・高校生）の社会体験研修受け入れ
  - ・ 教員のための博物館の日（※）実施協力  
 ※博物館活動に親しむ機会を設け、博物館の資料や事業は「授業に活用できる貴重な学習指導の資源」であることを体験的に伝える。
  - ・ その他、上記の目的に沿う活動への協力
- 対象者 教職員
- 期 間 令和4年度（通年）
- 
- 【事業名】 熊本エデュケーションウィーク（KEW）での「博学連携事業の紹介動画」制作及び配信
- 目 的 当館が行っている「博学連携事業」の一端を、学校関係者、社会教育関

係者、児童・生徒・保護者、一般の方向けに広く周知する。

**内 容** 令和2年度から熊本市が主体となって始めた取組で、当館は令和3年度より参画した。昨年度は、館内での学習支援活動の様子、ゲストティーチャー派遣授業の様子、それらと関連したZoomによる遠隔授業・遠隔解説、オンライン学習支援の取組等を40分程度の動画にまとめて紹介したので、本年度はそれ以外の「博学連携事業（教職員研修講座・中高生の職場体験事業・大学生の博物館実習等）」について紹介する予定。

**対象者** 学校関係者、社会教育関係者、児童・生徒・保護者、一般の方  
**期 間** 令和4年度（R5年1月下旬がKEW期間）

**【事業名】** 子ども科学・ものづくり教室

**内 容** 主に小中学生を対象に「科学実験や科学工作」などの直接的な体験活動を通して身の回りの自然事象に対する興味・関心を高め、楽しく活動しながら科学の原理や技術（歴史や文化に関する内容も一部含む）について学ぶ機会を提供。

※子どもの心に不思議の種（ふしぎだね）を蒔く。色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学などをテーマとした科学実験・科学工作のほか、他分野の学芸員との連携による内容の充実を図る。また、大学や高専、教育サークル、NPO団体との協働イベントも実施し、より魅力的な運営を行う。

**対象者** 主に小中学生  
**期 間** 令和4年度（通年）

### （3）博物館実習受け入れ

**【事業名】** 博物館実習

**目 的** 博物館は、学芸員をはじめとする博物館に関わる人材を育成する責務を有しており、職員自身も実習生の指導を行うことで、学芸員としての基礎・基本を再確認できる。このような実習受け入れを通して、当館の質の向上につなげるもの。

**内 容** 文部科学省作成の「博物館実習ガイドライン」に基づき、実習生を受け入れる。

・実習生は公募受付け

- ・ 当館の実情を踏まえたカリキュラムを作成
- ・ 評価項目は「出席状況」「実習態度」「理解・知識」「能力」「実務状況」
- ・ 実習期間は8月下旬（6日間）
- ・ 受け入れは自然系11名、人文系8名（合計19名の予定）

#### 4. 行事・イベント

##### （1）ゴールデンウィークイベント

###### 《GW・大型連休中の催し》

【催事名】 「G・W! 大型連休は熊博へ」 ※実施済み

- 目 的 学芸員・研究員の専門性を活かし、GW期間中に多様なイベントを開催し、博物館活動の多面的な魅力を伝える。
- 内 容 各学芸員・研究員が提供可能なイベント考え、内容を工夫して行う。
- 対象者 各事業により対象は異なる（幼児から一般市民向けまで様々）。
- 期 間 4月29日（金・祝）～5月8日（日）までの土・日・祝日  
（8日間実施予定）

##### （2）野外活動・研究関係

【事業名】 化石観察会（2022夏・2023春）

- 目 的 化石や熊本の大地に関する普及・啓発を図る。
- 内 容 小学生以上の子どもたちや保護者を対象に、大型バスで化石産地に行き、露頭の観察や転石の採集などを行う。
- 期 日 夏休み・春休み期間中、もしくはその直前・直後の土日

##### （3）その他

【事業名】 自由研究相談会

- 内 容 動物・植物・岩石・化石・理科実験・科学工作・天文などのテーマを中心に、小中学生を対象とした夏休みの自由研究の進め方や標本の収集方法、調べ方、まとめ方などについての助言を行う。
- 期 日 ①テーマ設定：7月24日（日）  
②まとめ・標本同定：8月21日（日）  
※感染症の流行状況によっては予約制の個別面談で行う場合もある。

《2月：くまはく誕生月間の催し》

【催事名】 「くまはく誕生月間イベント（2月）」

目 的 昭和27年（1952）年2月4日に開館した熊本博物館の誕生月にちなみ、2月の土・日・祝日に各種イベントを開催することで当館への市民の関心を高めるとともに、博物館活動の多面的な魅力を伝える。

内 容 各学芸員・研究員が提供可能なイベント考え、内容を工夫して行う。

対象者 各事業により対象は異なる（幼児から一般向けまで様々）。

期 間 令和5年2月：土・日・祝日の予定 ※日程調整中

## 5. 資料の収集・保存

【事業名】 熊本博物館屋外展示 SL アスベスト飛散防止状況調査

目 的 2021年4月の「大気汚染防止法」の改訂に伴い、SLの蒸気機関部分の断熱材に含まれるアスベストの飛散状況等を再検査し、必要な飛散防止対策を講じるためのもの。

内 容 前回のアスベスト調査（平成17年に実施）の結果をもとに、配管部や前面蓋部に塗布されていたと思われるアスベストの現状を点検するとともに、機関車周辺の空気環境調査も実施する。アスベスト含有部については飛散防止のための対策に活かす（除去・塗料で硬化等）。8月中には終了予定。

【事業名】 熊本博物館屋外展示屋外展示 SL 塗装等業務委託

目 的 風雨や周辺樹木の落枝・落葉の影響及び経年劣化により、本体各所に錆や塗膜剥落、部材の損傷等が目立ってきたため、洗浄・塗装、部分補修等の業務を委託する（前回のリニューアル塗装等業務から5年経過）。

内 容 熊本ゆかりの展示 SL を今後も永く保存し、かつ広く展示に供するため、特別史跡熊本城跡の現状変更申請許可を受けて仮設の足場を設置し、アスベストの飛散防止策を講じながら車輛の洗浄・部分補修・再塗装等を行う。

※工期は9月～11月半ばまでの予定。

## 6. 塚原歴史民俗資料館関係

### (1) 展示活動（企画展等）

【事業名】 「キッズ考古学新聞コンクール全国作品巡回展」（共催展）

目 的 全国の子どもたちが作成した考古学新聞を展示することにより、多くの  
人に考古学への関心を深める。

内 容 kids（キッズ）考古学研究所主催の第2回 kids 考古学新聞コンクールで  
最終審査に残った作品45点を展示する。

対象者 一般

期 間 令和4年12月1日～令和4年12月25日まで（25日間）

### (2) 資料館における教育・普及活動（講座・教室等）

【事業名】 考古学講座

目 的 講義を通して、学ぶ楽しさや考古学への興味をもってもらい、文化財愛護  
心の高揚を図る。

内 容 考古学の成果をもとに、毎回違ったテーマで講義を行う。年10回開催。  
熊本博物館・熊本市文化財課・周辺市町村職員等の職員にも依頼し、最新  
の発掘調査成果等の話なども織り込む。

対象者 一般

期 間 令和4年5月～令和5年2月 ※日程調整中

【事業名】 古文書講座

目 的 古文書の解読を通して時代背景を知ることにより、歴史のおもしろさを  
学ぶ。

内 容 館外講師に依頼して実施。年間テーマに沿って、古文書の解読や時代背景  
について学ぶ。年10回開催。

対象者 一般

期 間 令和4年5月～令和5年2月 ※日程調整中

【事業名】 学芸員と歩く野外博物館

目 的 塚原歴史民俗資料館周辺に残る豊かな自然や文化財を訪ね、その魅力を実  
感してもらい、自然や文化財への興味を持たせる。

内 容 塚原歴史民俗資料館周辺の野草観察や遺跡の探訪。  
 対象者 一般  
 期 間 令和4年4月及び令和4年10月 ※日程調整中（※1回目は実施済み）

【事業名】 各種体験教室（土器づくり・勾玉づくり・埴輪づくり・古代織づくり・編布づくり・藍染）  
 目 的 各種の体験を通して、考古や歴史、民俗の分野に興味を持ってもらうとともに、文化財愛護心の高揚を図る。  
 内 容 熊本市に所在する資料などを基に作成した体験道具を使ったモノづくりや昔遊び及び伝統的手法を体験する。  
 対象者 一般  
 期 間 令和4年5月～令和5年3月 ※日程調整中

### （3）博物館実習受け入れ

【事業名】 博物館実習  
 目 的 博物館は、学芸員をはじめとする博物館に関わる人材を育成する責務を有しており、職員自身も実習生の指導を行うことで学芸員としての基礎・基本を再確認できる。このような実習受け入れを通して、当館の質の向上につなげるもの。  
 内 容 文部科学省作成の「博物館実習ガイドライン」に基づき、実習生を受け入れる。  
 ・実習生は公募受付け  
 ・当館の実情を踏まえたカリキュラムを作成  
 ・評価項目は「出席状況」「実習態度」「理解・知識」「能力」「実務状況」  
 ・実習期間は8月23日～8月28日まで（6日間）  
 ・受け入れは、人文系1名